



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6番9号 丸藤ビル2階

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@jfmga.com](mailto:office@jfmga.com)

令和3年7月16日

### ガイド業務再開に向けての行政対応班からの報告

ー新型コロナウイルス感染再拡大により減退の危機にある公益的事業を行う  
事業者への支援の要望活動の報告ー

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

平素より会務にご尽力をいただきありがとうございます。

昨年来の新型コロナウイルスの感染再拡大とそれに伴う緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の発出は、山岳スポーツ愛好者の自然体験機会を著しく減少させている一方で、山岳スポーツ愛好者の安全とこの分野の健全な振興を保守する山岳サービス提供者の経営環境や就労機会にも大きな影を落としています。

こうしたことから、本会では北アルプス山小屋協会（会長 佐々木 泉氏）と協働し、内閣府、厚生労働大臣、国土交通大臣、文部科学大臣、環境大臣、林野庁長官、スポーツ庁長官、観光庁長官に対して、添付要望書の手交を目的とする面会を申し入れ、6月28日、7月6日、7月7日に渡って、5つの省庁を訪問し、要望伝達をおこないました。

要望の骨子は、コロナ感染拡大に起因する需要減退によって山小屋事業者と山岳ガイド事業者の公益的機能の継続は危機的状況にあり、これは国土の7割が山林である本邦における国民の体育的かつ文化的体験の健全な発露と振興を阻害する要因となっているものと思われることから、この分野において公益的な機能を担う事業者に対する国による支援を強く要請する、というものです。

根拠となるデータにつきましては、令和3年5月24日までに実施した「第4回新型コロナウイルスにおける影響に関するアンケート」に基づきました。このアンケートにご協力をいただいた会員の皆様には改めて感謝申し上げます。

斯様な環境下にも関わらず事業の継続に力を尽くしていらっしゃる皆様には、衷心より敬意を表しますとともに、本会といたしましても、会員サービスの一環として、今後もこの分野に相応のリソースの注入をしてまいります。引き続きよろしく願いいたします。

以上



笹川環境副大臣に要望書を手交



朝日国土交通大臣政務官に要望書を手交

(画像提供：橋本岳衆議院議員事務所)

**【添付資料】**

- 1 山岳ガイドに対する「新型コロナウイルスによる影響に関するアンケート」結果
- 2 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol.1～11

本件についてのお問合せ先：

公益社団法人日本山岳ガイド協会特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム  
テレワークによる勤務体制のためお問合せはメールにてお願いいたします。  
メール：[office@jfmga.com](mailto:office@jfmga.com)

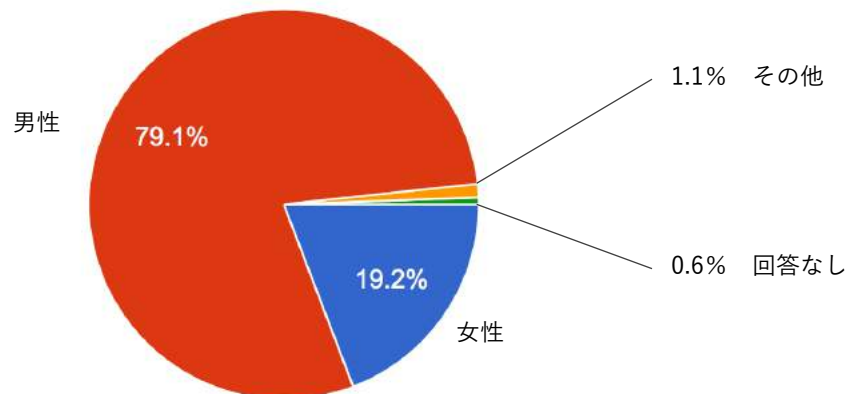
## 公益社団法人 日本山岳ガイド協会

## 第4回 新型コロナウイルスにおける影響に関するアンケート

178件の回答

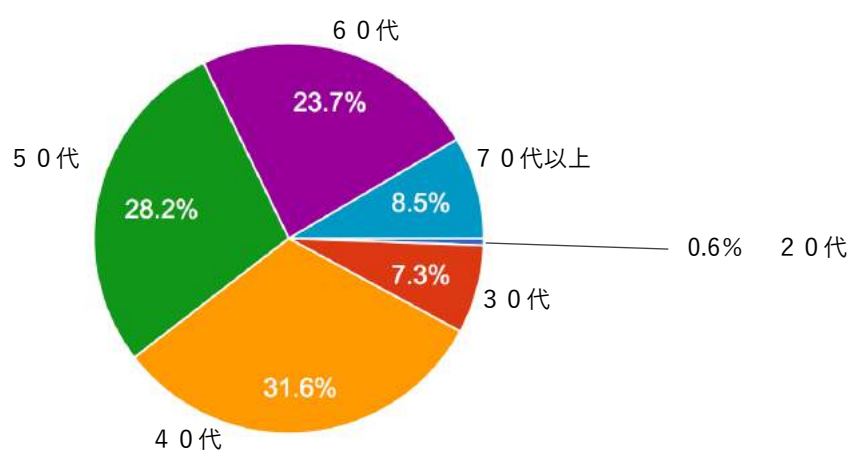
## 1. 性別を教えてください。

177件の回答



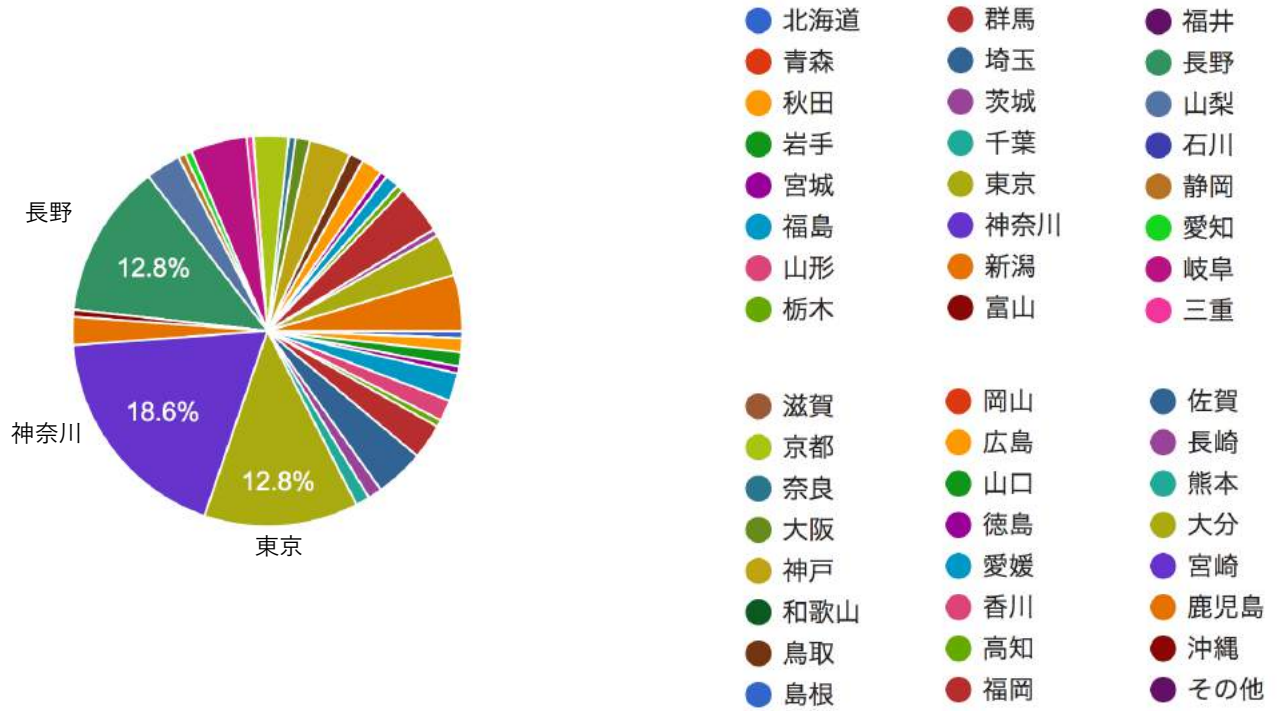
## 2. 年代を教えてください。

177件の回答



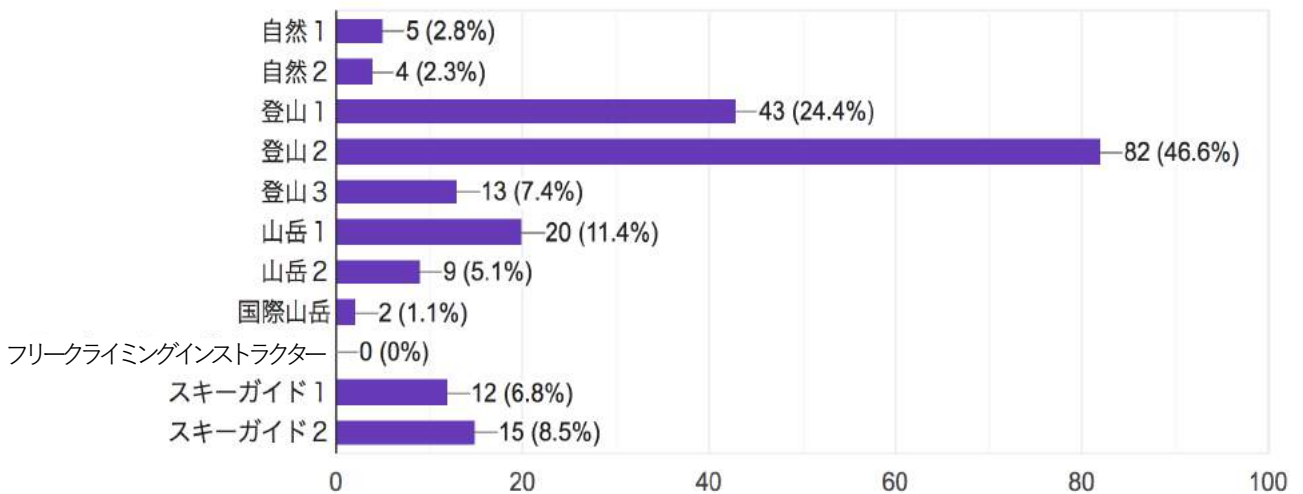
### 3. 居住都道府県を教えてください。

172件の回答



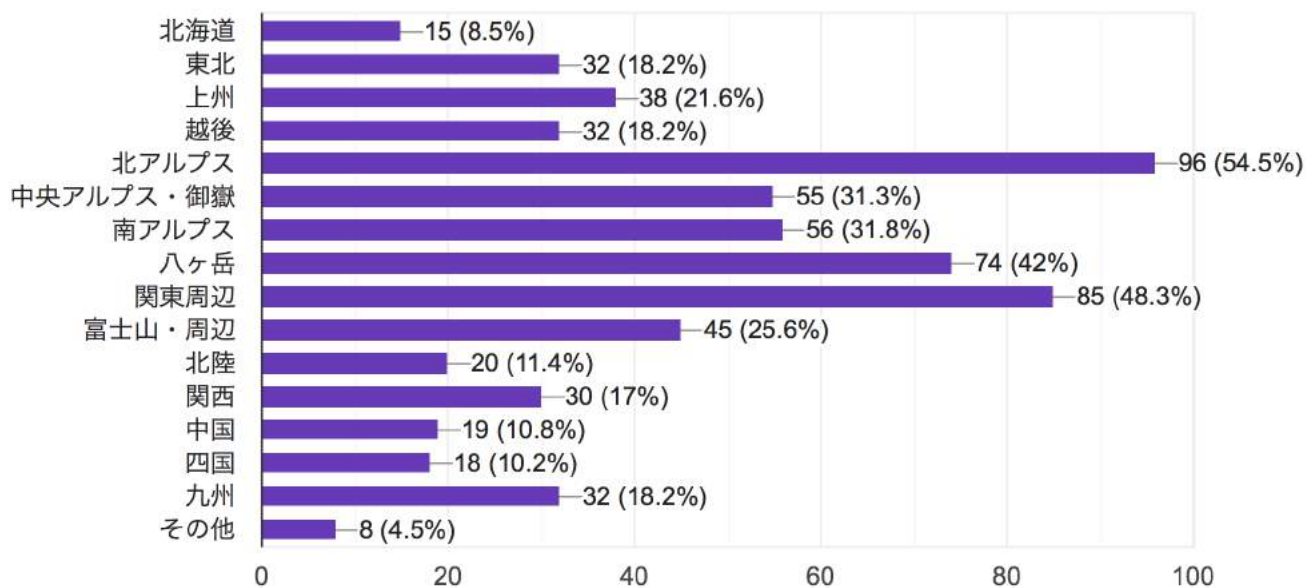
### 4. ガイド種別を教えてください。（複数回答可）

176件の回答



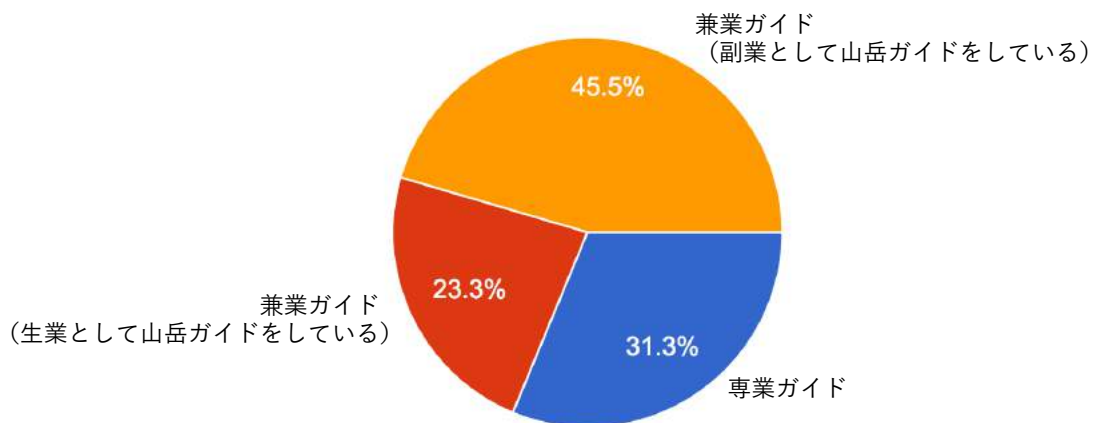
### 5. 主な活動エリアを教えてください。（複数回答可）

176件の回答



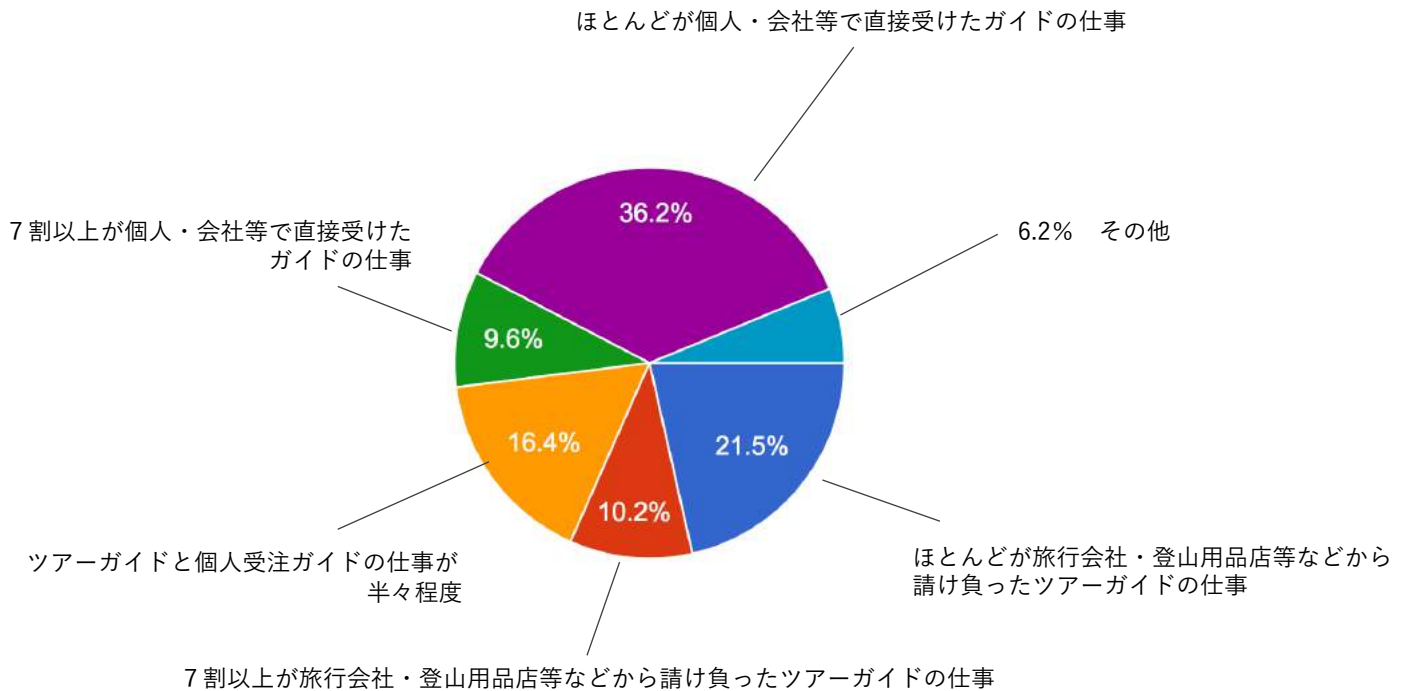
### 6. 専業／兼業ガイド どちらですか？

176件の回答



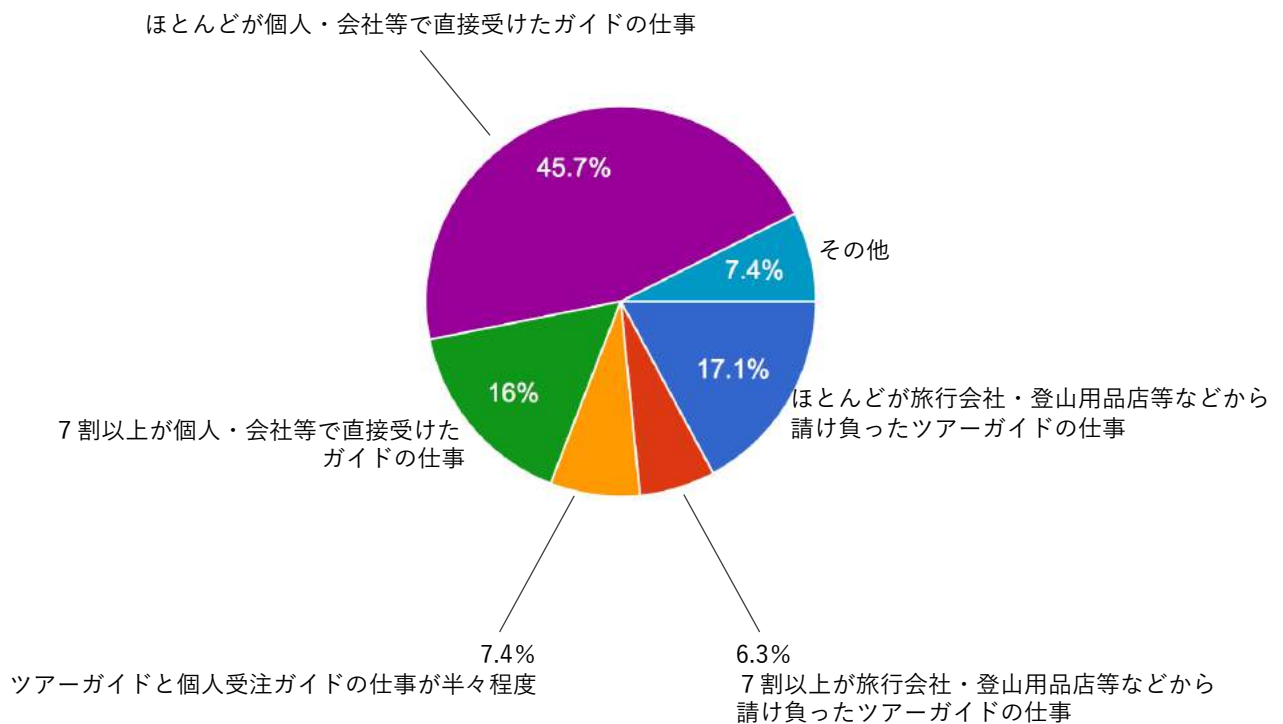
## 7. コロナ禍以前の顧客層の割合を教えてください。

177件の回答



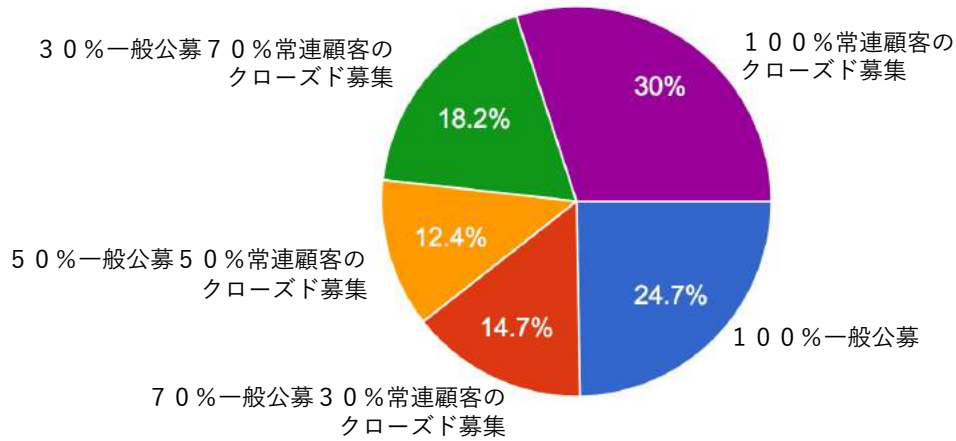
## 8. withコロナにおける顧客層の割合を教えてください。

175件の回答



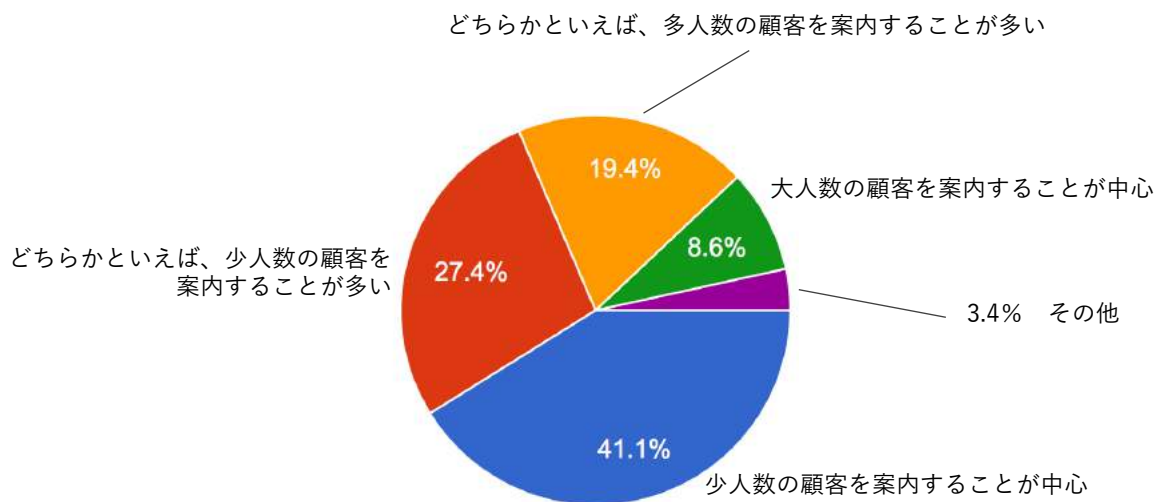
### 9. 個人顧客の集客形態について教えてください。

170件の回答



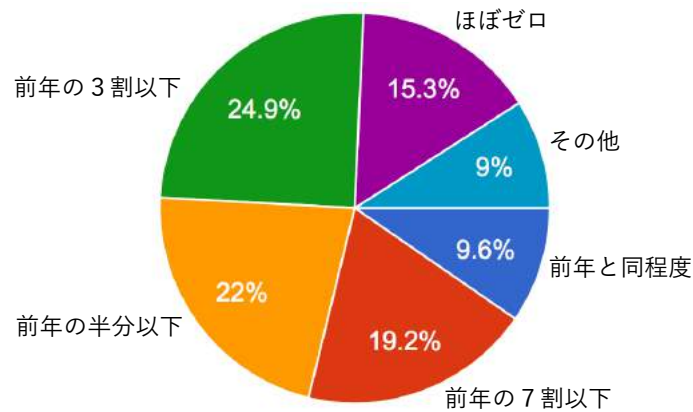
### 10. コロナ禍以前の業務スタイルに最も近いものを選んでください。

175件の回答



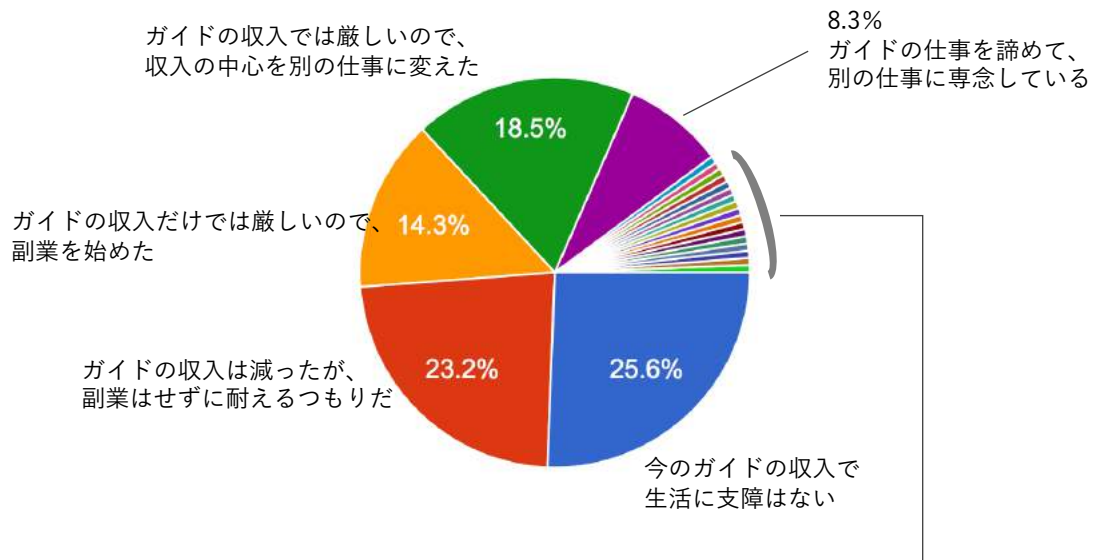
## 1 1. 2020年のガイド業務における収入は前年(2019年)と比較しどの程度ですか？

177件の回答



## 1 2. ガイド収入の落ち込みについて、現在の状況に最も近いものを選んでください。

168件の回答

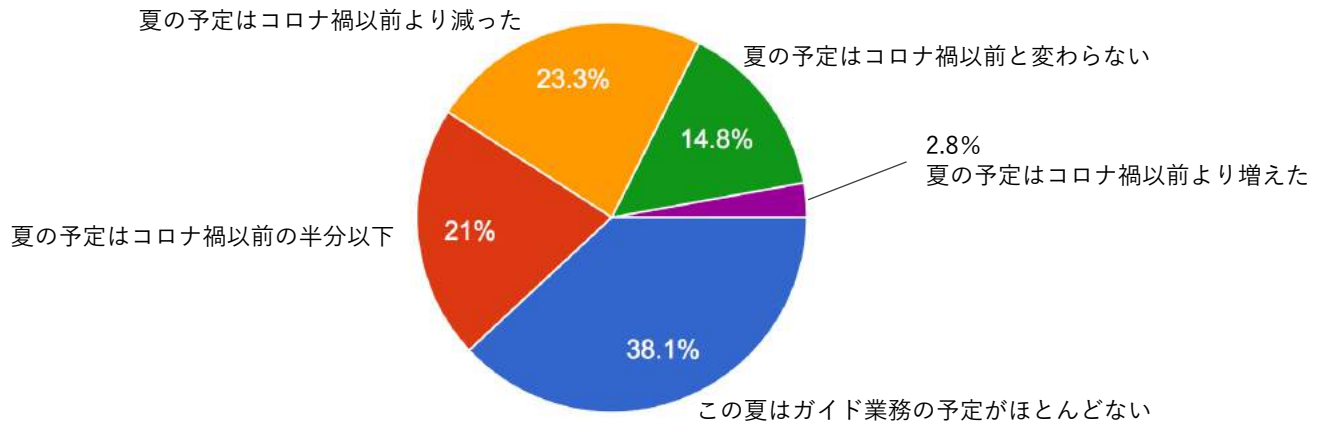


- 収入の中心は別にあるので、ガイドの収入はあてにしない
- 元々ガイドは副業なので、主たる仕事で収入UPできるよう努めている。
- 主な仕事が減ったので顧客を中心としたガイドを増やすアルバイトしてる
- 借金
- 共働きゆえ妻の収入と貯え、借り入れ等でなんとかしのいでいる。
- ガイド収入が厳しいので別の仕事も模索中
- 定期的なガイド以外の収入がもともとあったので、あまり支障はない

- 給付金を頂きながらガイド収入で生活している。
- 本業があり、ガイドを副業としているのはコロナ以前と変わらない
- 元々が兼業なので、そちらにシフトしているだけ
- 登山ハイキングの専門旅行社を退職し、別業態の企業に転職した。
- 兼業としてのガイド収入が激減した
- 兼業ガイドにつき問題なし
- ガイドの仕事が副業
- 副業の割合を増やした。
- 数種の業をしており、ガイド収入は若干減ったが働き方は変わらない

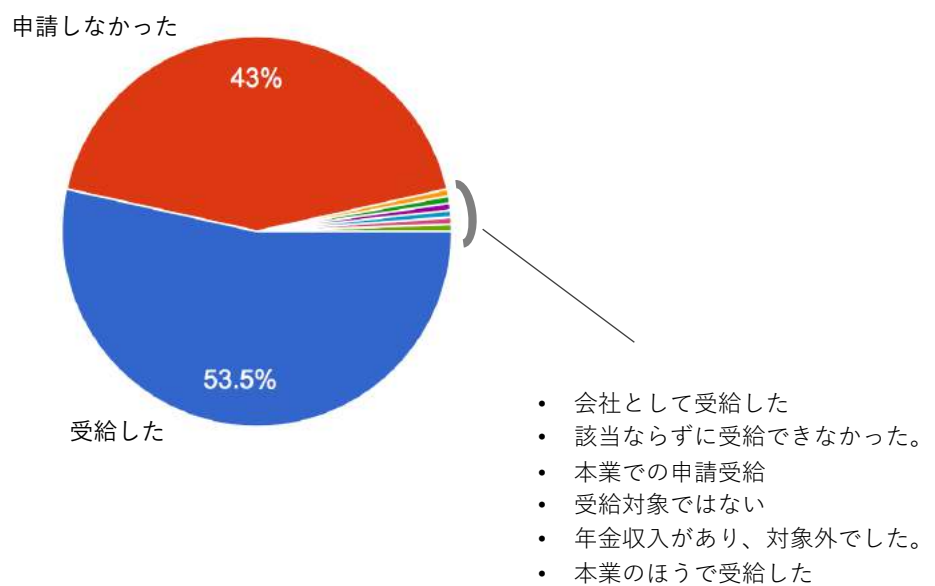
### 13. 5月以降のガイド業務の見通しについて、最も近いものを選んでください。

176件の回答



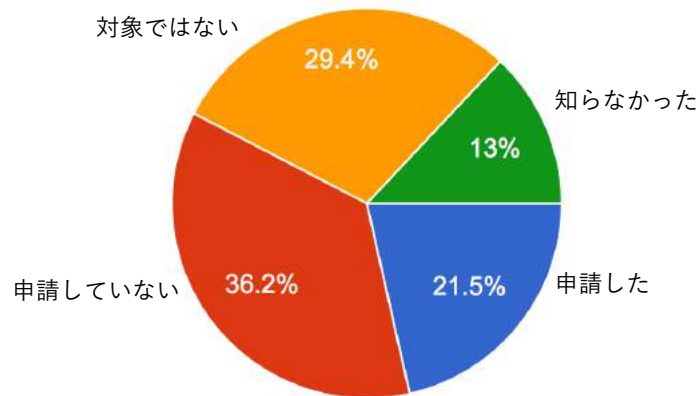
### 14. 昨年度に持続化給付金を受けたか、受けなかったか、教えてください。

172件の回答



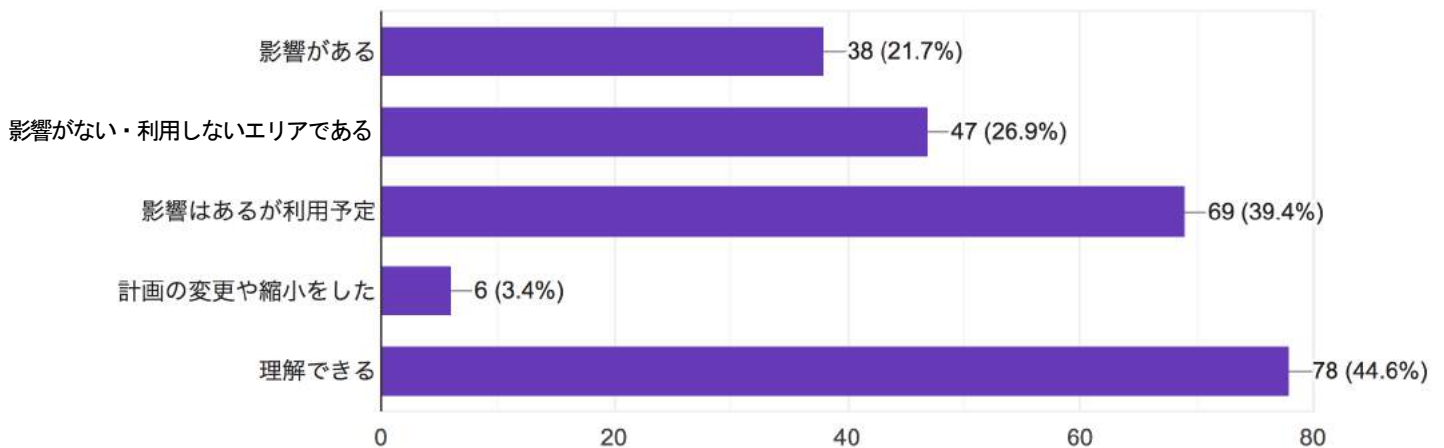
15. 2021年の緊急事態宣言の影響緩和に係る一時支援金の給付について(5/31締切)教えてください。

177件の回答



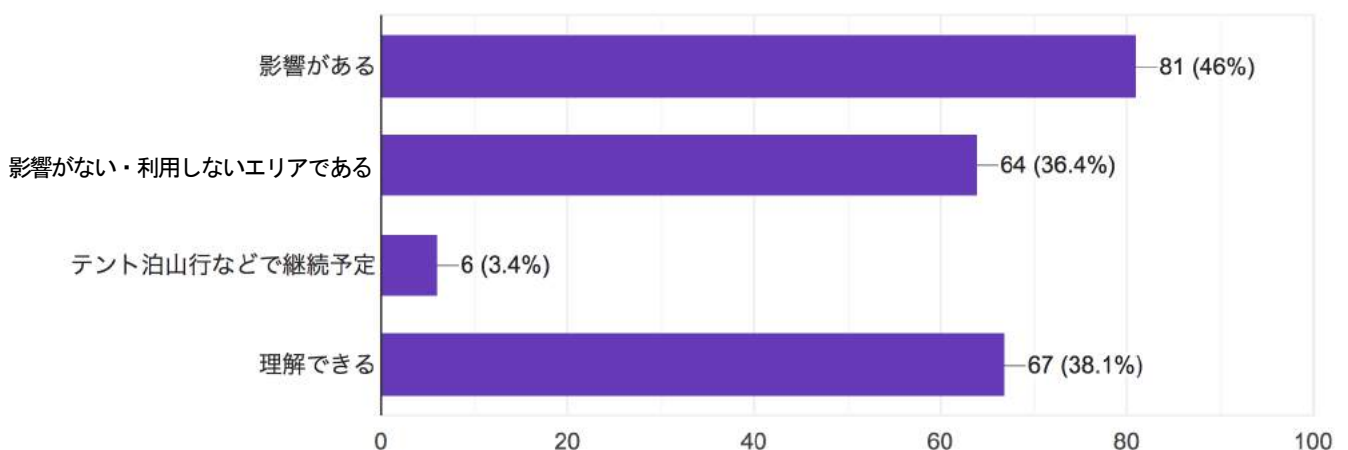
16. 北アルプスを中心に山小屋宿泊料金が値上げされたが、自分のガイド事業に影響を与えますか？ (複数回答可)

175件の回答



17. 昨年より南アルプス山域の山小屋の休止が広がっているが、自分のガイド事業に影響はありますか？ (複数回答可)

176件の回答



## 18. 各地での山小屋等の休止、収容人数の縮小、登山道等の整備不足など、コロナ禍において影響を感じる登山インフラについて気になること、行っている事などがあれば教えてください。

### 72件の回答

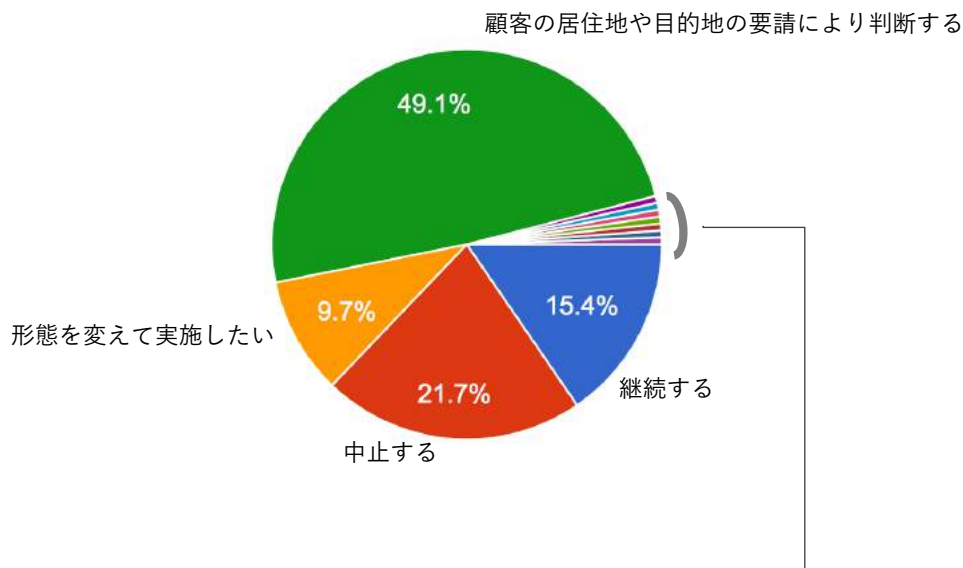
- ・ 収容人数の縮小
- ・ アプローチの林道の復旧遅れは計画の制限を受けている
- ・ 有償・無償を問わず、空いた時間が多いので登山道整備などに協力している
- ・ 麓の民宿、旅館を利用するようになった
- ・ 公共交通機関の間引き運行やガイド割引の依頼
- ・ 予約業務が増えた。予約しそびれるとスケジュールが成立しないので、かなり気を使っている。
- ・ 登山道整備の支援
- ・ インフラではないが、登山道で野生生物(ツキノワグマ)の痕跡を見ることが多くなった。
- ・ 天候を判断して直前に予約することが難しい場面が発生してきた
- ・ 予約及びキャンセルがしにくくなる。
- ・ 昨年度、所属する正会員団体が、環境省誘客推進補助金事業に事業提案し採択され、コロナ期間中の登山道調査/整備や環境保全活動を所属ガイドに割当て、収入確保への取組みを実施した。環境省は本年度も同様の補助金事業を実施しており、所属する正会員団体は今回も事業提案を行っている。
- ・ 山小屋に宿泊する場合は、お客様には以前よりも早いお申し込みをお願いしている。
- ・ 登山道整備不足になり、危険が増す懸念が大
- ・ できる範囲でできる事をする
- ・ 信仰登山が本来の日本の登山であるから観光登山が衰退することは歓迎する
- ・ 山小屋や登山道などのインフラが維持できるか気になるところだが、同時に、今くらいの入り込み数で山の経済が回るような仕組み作りが進んでいけば、山の自然にとってはよいことだと思う。
- ・ 山小屋が取りにくい
- ・ ガイドがない分登山道の整備に時間を使っている
- ・ 完全予約で山小屋が広く使えるのはよい。
- ・ 登山道の整備が追いついていない
- ・ 早期に満室となる可能性をクライアントに周知している。
- ・ コロナによって生じた行政の補助事業で、登山道の整備を行う事を始めた
- ・ 山小屋が休業なのでルート変更が多い。
- ・ 避難小屋利用が、行政からコロナ禍で利用控える旨案内があるが、実際には使用している人が多い。テント場の拡充などを行政にやって欲しい。
- ・ 登山道の荒廃。山小屋が休止することでの、遭難捜索・救助体制の不備
- ・ 一部のツアーにおいては交通費及び宿泊料金の値上げにより催行が厳しい状況にあるツアーについては代金値上げを依頼し出来るだけ中止を回避する方法で検討中
- ・ 寝具の件
- ・ 特に影響はなさそう
- ・ 寄付をした
- ・ 登山情報がコロコロ変わること、確認作業が激増しました。
- ・ 寝袋持参による利用者負担(備品購入、重量)が増えること。
- ・ ガイド予定の早期確定と山小屋予約管理の徹底
- ・ 南アルプスの山小屋、登山道への影響について情報取得が難しく、ガイドینگに不安を感じる。各地、各山小屋の最新状況を一元確認出来るサイトがあればなお良い。
- ・ 山小屋がビジネスとして成り立たず、廃業に追い込まれないか心配
- ・ 登山道の整備不足
- ・ コロナにより休止しているインフラ事業者が、コロナ後に今までのように回復する体力があるのか。これを機に閉鎖などになってしまうのではないかという不安。
- ・ 登山道の情報が不足
- ・ 公共交通期間の停止が気になる
- ・ 顧客がいても山小屋の予約が取れる保証がない。
- ・ コロナが完全に撲滅(風邪レベル)まで山小屋経営は無理でしょう 登山インフラとしての期待はしていない。
- ・ 顧客の体力低下が気がかり。
- ・ 山小屋のコロナ対策
- ・ 収容人数の縮小、キャンセル料の発生など、天候に日日程、行程の変更がしづらくなる点。
- ・ 一般のお客様は山小屋利用なので人数を少数制限で利用させてもらいたい。
- ・ 登山道等の整備不足;修復の遅れ等。
- ・ ガイドツアーを確定させるため早めに山小屋を予約する。予約内容に変更がある場合は山小屋に迷惑をかけないようにするためすぐに連絡をする。
- ・ 登山道等の整備不足
- ・ テント場予約の有無による混雑とトラブル
- ・ 山小屋の予約が必要(予約できない) 登山道の整備不足
- ・ 山文化が衰退しないよう積極的に小屋を利用するようにしている
- ・ 小屋の予約が取りづらく、計画が難しい。
- ・ 山小屋の経営は大変で登山道及び情報が出来ないと危惧している
- ・ アプローチをはじめ登山道の悪化が中々良くならない。
- ・ 事前予約(定員制限)の山小屋運営の場合、今のコロナ禍ではやむえないが、縦走型の小屋利用の場合、天候・体調等で日程が予定とおりに進まない場合があり、コロナ後は予約は必要でも縦走型の日程変更への柔軟な対応をしていただけるような予約運営システムだと有難いです。
- ・ 登山道の痛みは激しいが一部を直して利用しているところもある。
- ・ 地元の地元客が中心なので特に影響はありません

〈次のページへ続く〉

- ワクチン接種が終わり効果が出るまではガイドは縮小する
- 山小屋の休止、収容人数の縮小
- 通常より一度にガイドする人数を減らし、密にならないよう、あるいは山小屋の予約が取りやすいように工夫している
- バスの運行が無くなったり、減便があったりして交通手段が厳しい場所があります。山小屋の予約も人数制限の為、直近ですとりにくいです。
- バスや、ロープウェイなどのどうしてもどうしても接触しないといけない状態を危惧する。テント泊の値段も上がった。
- コロナを機に、廃道になったり、閉山してしまう山域が出てくるのではないか？という懸念があります
- 要職についている顧客が多いため、感染対策を第一に考えており、山小屋泊が必要な登山計画などを提案していません。
- その他（なし、特になし等々）

## 19. 夏を前に再び「緊急事態宣言」が発出された場合、期間中ガイド業務をどうされますか？

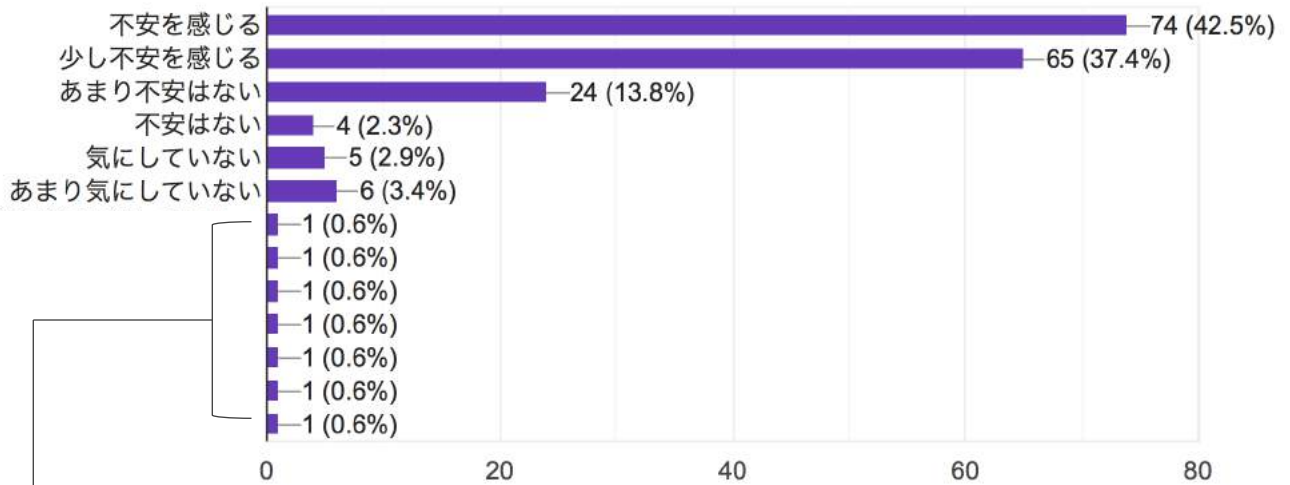
175件の回答



- そもそも予定がない
- 外注で行うことがほとんどなので、断れる限りは断りたい。
- 所属会社の方針に従う
- 集客ツアーガイドの仕事です会社の方針に従います
- できる範囲で継続したい。
- 協会から考えて行動せよという指示があるので、宣言下地域ガイドなら中止しかない。
- 地元で活動しているため、都心部の実のみの発令で、地元が緊急事態宣言にならなければこれまで通り継続する。地元にも発令されたら、形態を変えて実施

## 20. ガイド業務を行うにあたり、自身や顧客への新型コロナウイルス感染への不安はありますか？（複数回答可）

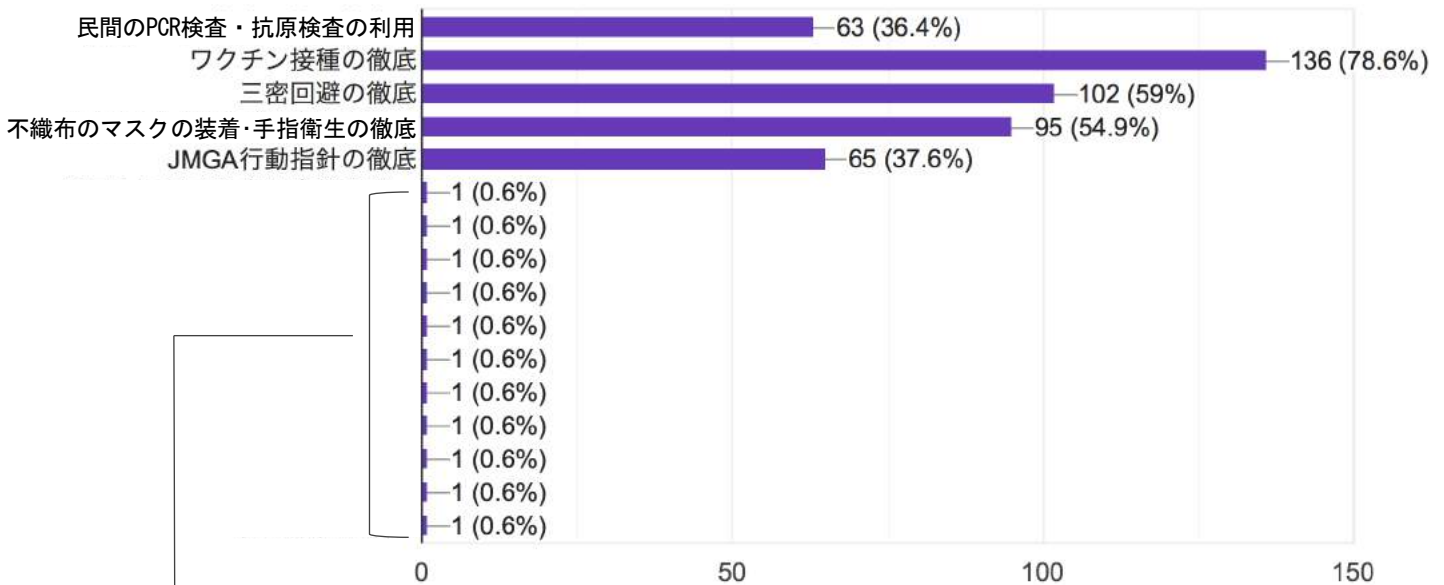
174件の回答



- 地域の感染状況を常に注目し、不安がある場合は実施していない
- 不安はあるが、山の中は風も有り、密集を避けて行動できる。
- 地域差があるでしょう。質問への返答が難しい。
- 不安はあるが十分な事前チェックと感染防止対策により予防
- 雷や滑落の方が怖い
- 変異型の感染が増えているので不安を感じます
- きちんと対策を行っている

## 21. 今後ガイド業務を健全に行うために必要な対応はどのようなものと考えますか？（複数回答可）

173件の回答



- 新型コロナウイルス感染症に対する妥当な理解とその周知。
- 今の感染防止対策では完全に感染します
- 山岳ビジネスの社会への正しい情報開示
- ワクチン接種以外に手立てはないと思う
- コロナに対する自己意識を強く持ち、実行することのみ。
- PCR検査絶対信仰に基づく政策をやめる訴訟、著名運動など
- マスメディアに左右されない事。
- 自然の中での野外活動は心身の健康に良いという前向きな情報をもっとアピールすること
- あきらめ
- 少人数制の催行
- 普通に仕事をする

## 22. ガイド業においてコロナ感染予防に対して障害や難しさを感じる点はどのようなものですか？

125件の回答

- 見えない、増減が読めない、個人によつての捉え方が極端に違う
- 検査の徹底がされていないことに不安を感じる
- マスクの徹底やフィールドでの手指消毒
- 顧客間の意識や考え方の差異、多様性
- 休憩／飲食中の会話への注意
- 共同テント利用での山行が出来ない
- 注意意識をしながらも動きたいお客様は多い現実の中、どれだけ業務を抑えるかはガイド側の自主規制による部分が多い。実際どんな状況下でも声をかければお客様はある程度集まるのが現実。飲食店等と違い、公的に自粛要請が来ているわけではないので、ガイドや旅行会社の意識による部分が高い。それだけに思うように仕事ができない現実がもどかしい。
- 昨年よりも山では感染予防に気を遣わない人が多くなっている。自分と顧客とで感染予防意識の違いを感じることもある。
- 顧客に未発症の陽性者などがいた場合のガイド中の接触による感染は不可避ではないかと思う
- 山中で病状が悪化した場合の対応
- 山小屋や施設によって対策の温度差があり、かなりゆるい施設も時折見受けられる。
- ツアー中の感染防止対策へは理解して頂けるが、居住エリアの違いにより意識の差が見受けられる。
- 山行中の有事の際に、現地の救急や医療に負担が大きい
- グループを扱う場合のコミュニケーション方法。
- 交通機関を利用する移動時での感染予防。
- お客様個人ごとに、コロナに対する考えが違うこと。
- お客様の山行減少によるトレーニング不足
- マスク対策 移動中の密
- 緊急事態宣言地域に指定された場合の対応
- マスクしていると顧客の表情が見えない
- 雨の日はどうしてもお客さんとの距離が近くなる。
- 仕事ができているから何も無い
- 予防効果よりもリスクの高い感染対策を立場上強いられること
- 顧客が減って困る
- 行動中のマスクは困難
- 無し
- マスクが息苦しい
- 気をつけていても顧客との距離や、やりとりが密接（近く）になる場面がある。とくに、従来型に比べ感染力が非常に高い変異株が猛威を放つ現在、とくに難しさを感じます（理想論としては・・・業務自体を控えるべきではないかという考えとの葛藤）
- 山頂や小屋での密状態の回避が難しい
- マスク着用しているにしても、クライアントに手の届く至近距離で向かい合って会話する場面が少なくない。
- 宿泊を伴う場合の部屋割りや食事のテーブルの割り振り。
- 山小屋泊 換気の難しい空間なので個室以外は疑問。
- 歩行中のマスク着用、車両の使用率制限(以前より定員を減らしている)
- コロナの特徴から、今やっているコロナ対策が絶対に予防になっているとは言えないところ。
- 緊急宣言が出ている都府県でありながらツアーで来られる人は困る
- 山小屋泊 換気の難しい空間なので個室以外は疑問。
- 仕事をもらうガイド会社のトップが、対策を打ち出したがり行っているつもりみただけど、全く出来ていない
- ワクチン終了後に、復活なるか
- マスク着用での案内は声が届かず無理です。
- 完全隔離ができない以上感染はやも負えない マスクアクリル板は建前上のものである
- ガイド側とお客さまの認識が違う場合
- マスク着用による意思疎通の取りづらさ。
- お客様とガイド間では感染拡大予防に対する意識の温度差が違う
- 不特定多数を案内すること
- 会話が聞き取れない時に近づいてしまう。お客様の食器を触るとき
- お客様や宿泊施設によって、参加や受け入れの意識や感染症対策の意識が異なっているため、直前まで予定が確定させにくい。
- 登山中のお客様間の間隔を空けての歩行。
- 顧客と密になりやすい状況が多発する
- 宿泊のツアーをキャンセルすることになってしまったこと
- マスクの常時着用
- 宿泊ツアーの避難小屋の現状では感染予防は難しい。
- 山小屋の生活、食事と寝る所の密
- ガイドが登山・解説時のマスク着用が苦しい
- クライミングの時はどうしても距離がちかくなる
- 三密回避になる機会が度々あること。
- 不織布マスク着用にこだわり過ぎるあまり、二酸化炭素摂取過多や熱中症にならないか、気を遣います。
- ウイルスが付着しているかもしれないマスクのつけ外しの意識の甘さを徹底できない
- 車内の三密
- 各人の意識の違い
- コロナ疑いがあった場合の相談先の確保が心配
- 安全面から休憩時の密な状況は避けられない場合がある

〈次のページへ続く〉

- マスクをしていると、声が届きにくい。聞きにくい。
- お客様によっては宿泊と伴う山行を今の状況では敬遠する方もいらっしゃる
- 解説時やサポート時のお客様との距離感
- ①顧客との会話が前提なため、完全な予防が困難。②山小屋での感染予防が徹底しにくい
- PCR検査などの客観的な判断材料がない場合、自身を含め引率グループの中に感染リスクのある方をの有無を正確に判断できない点。
- 登山のリスクの正しい情報開示
- 三密、行動食中の会話
- 人によって予防への考え方・意識が違うこと
- 自粛要請により行動が出来ない事
- 顧客満足度と、感染予防のバランス
- 食事の際の感染リスク
- お互い体調が万全でなければ、ガイド業務ができない
- 一般の登山者の気の緩み。
- 顧客との距離、夏場の登山中でのマスク着用
- もうガイドそのものを辞めるつもり 今年夏も今の状況かわらなければ、ガイド資格の更新はしない（出来ない）
- 顧客の自己申告を信用せざるを得ない。
- 行動中のマスク着用の対応等
- お客様個人の見解の違い。
- 暑い季節のマスク着用
- 人との間隔の取り方、自分の飛沫防止（マスク着用）
- 自然解説やコミュニケーション
- 食事の際のコミュニケーション
- 特に人数が多い場合のマスクをしてのご案内
- 体温検査やパルスオキシメーターだけでは感染者が分からない？
- 山はオープンエアだから安全といいつつ、もしもの事故の際にひっ迫している医療現場にさらに負担をかけてしまう負目
- 施設の休止や閉鎖
- 無症状感染者は見分けがつかない
- ソーシャルディスタンス。狭い登山道やショートロープ時の人の間隔、ソーシャルディスタンスを真に受ければ安全確保に支障が出る。
- 顧客の理解度の把握
- 顧客の感染症に対する意識の温度差
- 野外については問題ないと考えていますが、山小屋や交通機関の利用においてはこちらで対応しきれない難しさがあると感じています。
- マスク着用での運動は難しい
- 他パーティーとの接触
- 参加14日前からの体温チェックと、手指衛生の徹底と、換気で対策は十分なので、難しさはない。
- 特になし
- お客様のマスク着用をどの様に指示すらかが難しい。
- 登山中のマスク着用。特に登り。
- こうしていれば感染しないという方法はなく、登山は所詮レジャーの範囲であり、世の中の優先順位的には低位なのだと思う。
- 危険箇所などで密になることは避けられない。ロープ使用や補助など密になるからと言って、避けることはできない。
- 特になし
- 顧客の体力維持不足
- 体調の変化が起きた場合、寝食を伴う場合
- 本当に発熱がないのか濃厚接触の可能性はなかったのかなどお客様の申告だのみなので不安はある。山の中では対策が緩みがちに感じる。
- マスクをしての歩行が困難なこと
- 山といえどもどこで感染するかわからない
- マスクを着けての登山・クライミングは息苦しく余計な体力を消耗する。
- 仮にPCR検査で陰性結果だったとしても、移動中に感染の可能性が否定できない、とか。
- 感染していても無症状の人がいる
- 昼食で山ごはんを参加者でワイワイ作るなどできないこと
- 行動前、行動中の注意喚起の際の飛沫予防
- 参加者が主催者の感染恐れより「心配していなく」主催者として、そこが心配。」
- お客様個々のコロナに対する意識に差があること（とても気にする人とあまり気にならない人が一緒に行動すること）
- その機会がない。
- 狭い登山道は人と近くなりやすかったり、一定の距離を取りながら歩くにもなかなか難しいです。
- 緊急事態宣言と地域差
- 移動交通手段に関して
- ソロでキャンプや登山に行く人が増えていること。素人のひとこそ、ガイドを使ってほしい。ソロよりもガイドを雇ったほうが（安全面、感染予防面でも）よいということが周知されていない
- 初めて出合うクライアント同士のコミュニケーション
- 顧客の予防に対する温度差
- 変異株の感染力がコミュニケーションを阻害すること。
- 感染対策と利便性のバランスに個人人でばらつきがある
- 10%の登山者は登山をやめており、2年で激減

## 23. JMGAが出した「新型コロナウイルス感染症 拡大防止のための行動指針」についてガイド業務に参考になった点を教えてください。

75件の回答

- 感染防御に必要な装備
- 全て
- 実施に当たり、説明しやすくなった
- 全体的に行動指針が分かりやすかったので、参加者への注意事項、健康チェック表などに使わせてもらいました。
- 感染防止のためのチェックシートなどを活用中
- すべて参考にさせて頂いています。
- 色々参考になっていますが、特に具体的なガイドレシオ抑制の目安を提示頂いたこと。
- ガイド業務はスタイルが多様なので一概に言えない部分もあると思う。対個人とツアー用では行動指針が変わる。
- レベル、行動時間、人数等を明示してくれたこと。
- 行動指針を随所でお知らせいただくことによって、その都度いろいろなことを考えるきっかけになっています。
- 仕事ができているから参考にしようが無い
- それなりに参考になる
- STEP別のレシオや行動時間等の指針など。
- 「山行中の行動指針」
- 今回のような事態が無かったので個人の判断だけでは決めることができない中、指針があること自体が助かります。
- ガイドレシオ
- 感染対策について早めの対策、出来れば緊急事態宣言のでた所の人の受け入れは、厳しいですが拒否する対応で行きたい
- 参考になったものはたくさんあったけど、gotoトラベルで全部むちゃくちゃになった感じがある
- 新型コロナ終了後まで、あきらめている
- 気休めにしか読んでない
- 行動指針があれば、お客さまにも理解して貰い易い
- 段階的な対応方法について
- 除菌シートやビニール手袋複数枚の携帯、適宜除菌すること
- 登山やガイド業務に精通された感染症専門医の方の提言のため、感染症専説得力がある点。
- お客様への説明や説得の際の指標になる。例／ガイド協会では対策プロジェクトチームを結成しマニュアルを作成し感染対策への呼び掛けや注意喚起を促していますので……等
- 三密を避ける
- 三密の回避・マスクの着用・消毒の徹底など
- 活動と感染防止の両立の難しさ。
- 実際に重症患者を診られている先生方の医学的な意見
- 登山活動中の行動指針等、感染対策について実際どのような点を注意し、行動すべきかなど参考にしている。
- 特になし
- 顧客との接し方、説明について
- ガイド業務をできるかどうかSTEP毎に仕分けされていて分かりやすかった。
- 全般にわたり参考になっています。
- 指針があり、そこではこうなっていると説明できること
- 近距離山域、小員数でのガイドライン
- マスク着用のタイミングなど
- 感染防止対策を状況に応じて細かく想定しているところが参考になった。
- ガイドに対しても、ワクチン接種を推奨していること
- 明確な行動指針
- クサリ場通過後の手のアルコール消毒
- 指針が示されている安心感が大きい
- ガイドレシオの厳格化
- 登山中の人との距離や感染予防に必要な装備等
- ガイドレシオは普段の半分 ルートは容易なルートを企画
- コロナ騒動から1年たって、インフルエンザレベルということが解かったので、今となっては、参考にならない。
- 全て参考になった
- 指針は必要だし確かにその通りなのだけど、100%完全順守が本当にどこまで出来ているか。。。
- 全体的に参考になりますが、特に感染症に対する医療の専門的な指針など。
- 特にないが一般的に理解できる
- 具体的な数値
- 判断基準となる。お客さんにも説明しやすい。
- 頭の中では分かっていることだが、それを文章化してもらっているのが、改めて整理しやすいし、お客様にも対応・説明しやすい。
- 都度、意識を改めさせられ、緊張感の緩慢防止に効果的です。
- ガイドレシオの縮小、SDの保持、手指の消毒など
- 顧客との距離、ガイドレシオ、基本的な感染予防
- 重症化ハイリスクとなる因子、持ち物、事前を含めたチェックシート
- ガイドレベルの指針が状況に応じてきちんと変動して周知されていることが、お客様への説明でも役立つ
- 内容よりも団体として行動指針を出すことが大切
- その他（なし、すべてが参考になった、全般、等々）

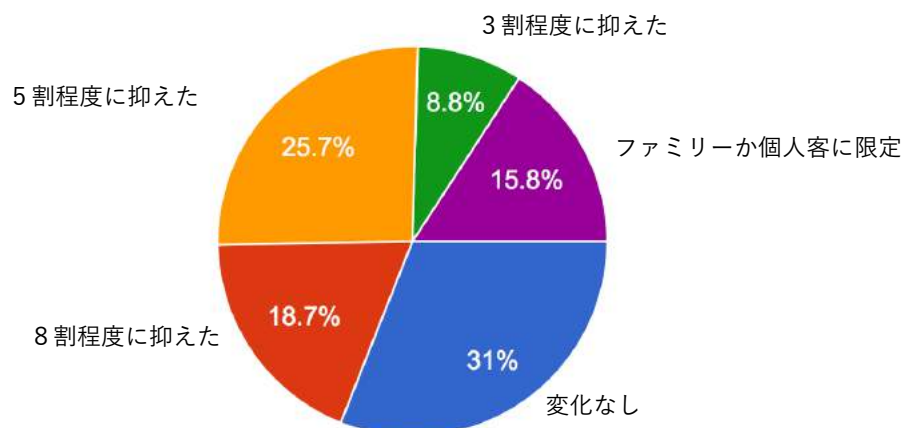
## 24. withコロナ時のガイド業務において「行動指針」以外に参考にした情報・サイトなどがありましたら教えてください。

56件の回答

- なし・特になし 17.9%
- その他
  - CONEのガイドライン
  - team KOI
  - ニュースなどでの専門家の考え方。
  - 企業の指針
  - 厚生労働省の年間死亡者総数と死因の内訳のデータ
  - 各山小屋の感染対策情報
  - 山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信
  - 山岳医療機構サイト
  - 日本登山医学会・山岳医療救助機構

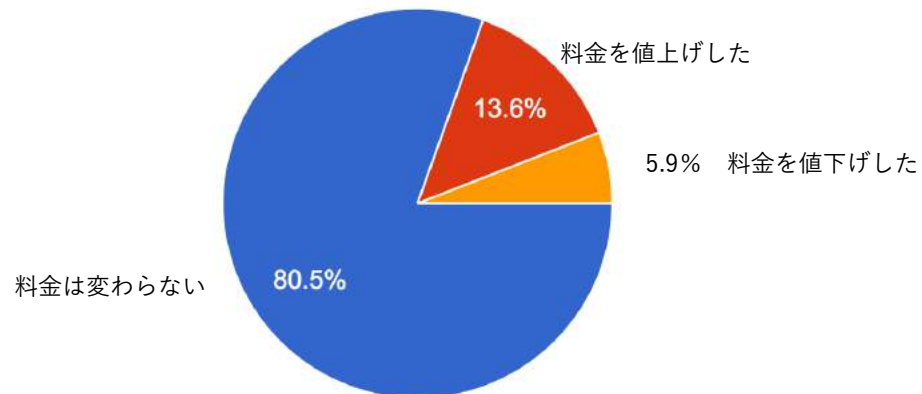
## 25. withコロナ時においてガイドレシオがどのように変化したか教えてください。 (通常のJMGAガイドレシオと比べて)

171件の回答



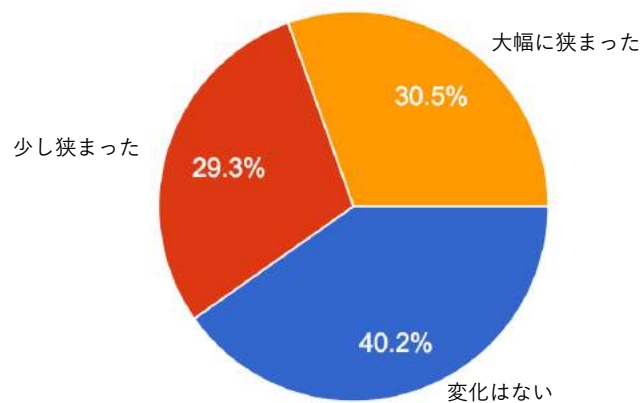
## 26. ガイドレシオの減少に伴い、ガイド料金の変化はありますか？

169件の回答



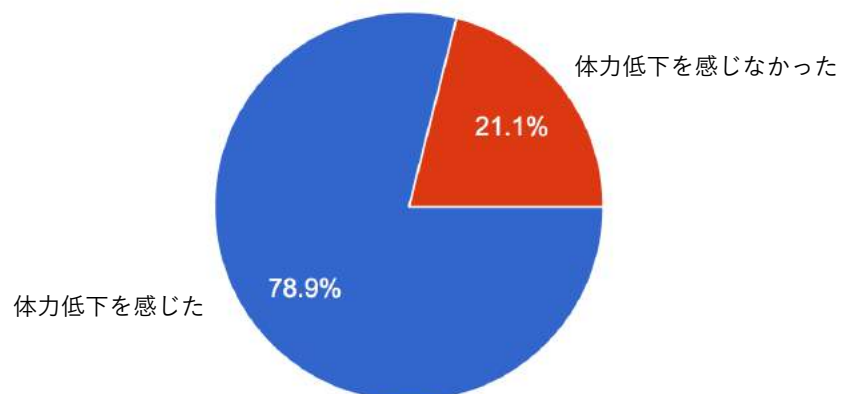
## 27. withコロナ時において活動エリアがどう変化しているか教えてください。

174件の回答



## 28. withコロナ時においてゲストの体力について変化を感じましたか？

171件の回答



## 29. withコロナ時においてゲストの状況について（体力・考え方・安全管理等）について変化を感じる事はありますか？

103件の回答

- 体力の低下を感じる
- 体力や技術の安全管理を意識した
- 体力低下を感じる
- 普段からよく登山をしている顧客と、そうでない顧客の体力差が大きくなっている。
- コロナ禍であっても、そうでなくても「個人差が大きい」
- 東京をはじめとした緊急事態宣言下に住まわれている人たちはかなりコロナに関して意識が薄い。長野を主体に活動をしている私から見ると、その方々たちは来られる方なので、とても顕著に感じる。そもそも県をまたがないようにと言われているにもかかわらず、平気で来るところが既に意識としておかしい。旅行会社も然りである。「県をまぐことは慎む」と言われていることは完全に無視状態。
- 自分と顧客とで感染予防意識の違いを感じることもある。
- 年齢、職業、地域に応じてコロナに対する考え方が違い、ドタキャンなどが発生している。
- ゲストの体力低下を感じる場面が時々ある。
- 全てにおいて、低下を感じます
- 体力：巣ごもりで低下しているゲストがいる。安全管理：体力低下するゲストが増えていることを、事前に伝え無理しないように指導。
- 登山をしない層が増えた
- 体力は明らかに落ちている。
- 体力テストは落ちていると思う。
- 過敏な人もいればそうでない人もいてバランスを取るのが難しい
- 体力や考え方が甘いお客様が「8割」、以前より体力や考え方がしっかりしているお客様が「2割」。二極化している気がします。
- 少数の実績しかないので評価できない
- トレンドやスタンプラリー的に登っているのか、それとも心の底から山に登りたいのかははっきり分かるようになった。
- ない
- 気になる人は来ない
- ストレスが増えている様子
- コロナ感染の怖さは感じておいでながら、チャンスがあれば歩きたいという思いの強さともに、ご一緒すると、「コロナでぜんぜん歩いていないから・・・」と、合言葉のように皆さんの口から発せられます。プランのグレードを抑えめにしているゆえ、実際、顧客における体力の衰えを実感することは正直、あまりありませんが、皆さんとも山行プランとともに体力的な不安は大きいようです。現在のパーティ構成としては、お互い顔が分かる「常連さん」的なメンバーのみで実施していますが、仮に初参加の方や知らない方が加わることにに対する警戒感や距離感はあるようです。
- 感染防止のためにマスクをつけて歩く程度。密を回避する行動をとっている。
- 遠方への移動に抵抗を感じる方が多い、宿泊を避けて日帰り登山
- あります。
- 消毒等の持ち合わせが不十分でした。
- 本当に体力かあってくる人もいるが、海外にいけないから山に来る的な、観光地気分の自分の体力をわかってない人が多い
- あきらめ withはないと思う
- 公共交通機関での移動に不安を感じる人が多い。
- マスクをして、息苦しいだけで高山病は屋も負えない状況になることが考えられる
- お客様ま間の体力の差を感じる
- コロナ感染を防ぐ上で、混成ツアーをすることのリスクと安全管理を考えなければならない。
- ある
- 全体的に体力が落ちている。コロナを気にしない人がいる
- 感染者数の多い地域からのお客様は申し訳なさそうに住所を
- 今までより、少し抑えめのペースや行程にしないと、全体の安全管理、旅程管理に支障が出やすい。
- 登山コースや日程によりキャンセルされる方が増えた。
- 今まで来なかった層の方々が来るようになったことは嬉しい
- とくになし
- やはり高齢の方が多くので皆さんかなり消極的になっています。
- 体力の低下を感じる反面、従来行っていた登山を望まれることもある。
- 1月からの緊急事態宣言においては、体力差が大きかったでした。
- ソーシャルディスタンスの感覚ができています 体力低下を嫌い山に行きたい人と出かけると感染すると思いき山に行かない人にと二極化した
- 医療従事者はほとんど参加しなくなった、家に年寄が居る方も参加を控えている、山行での越境も嫌がる。
- 安全管理面においてガイドの需要は高まっていると感じる。
- トレーニング回数の減少により、ヒヤリハットが増えていく。スケジュールに、より余裕が必要と感じる。
- 手指の消毒、山小屋内での過ごし方、三密回避が浸透している
- 体力が落ちている
- ストレスがたまっている
- 受け止め方が千差万別

〈次のページへ続く〉

- 泊数の低減化⇒遠くより近場へ。休日よりも平日志向。電車よりはマイカーで。など
- 全体的にゲストの登山や運動低下しているため、体力不足に起因したトラブルが多くなった。
- 山では大丈夫の意識が高い
- 人によって体力の差が激しい
- 参加者は感染予防に気を配っている
- 感染予防の意識のある人、少ない人がいた
- 人によって自粛の受け止めがかなり異なる
- お客様のの体調が万全でなければ中止する
- 顧客の体力が格段に落ちた
- 登山を避けている方が増えている
- 体力低下 歩けていない
- 自分は大丈夫との意識がある。
- この状況下において山に来ているゲストはむしろ山は安全という認識で感染対策が不十分になりがち。
- ゲストの体力
- ある
- 安全管理ではお客様体力、気力低下を前提で、気使い多し
- 感染予防
- 体力の低下、人によりコロナに対する考え方が違う点
- 体力に不安を持つ方が多いようだ
- 特になし
- 体力低下の度合いによるプレパレーションの必要性
- 顧客が離れる
- 感染拡大防止について各自でしっかり対策をとってくれている
- あらかじめ物品のやり取りを現場でしないよう通達しても行動食などを休憩時に配ってしまう人が後を絶たない。断りにくい。
- 体力・考え方・安全管理・活動エリアに変化
- 特にはないが山歩きは感染リスクが低い遊び（スポーツ）と思っている方が多い
- やはり運動不足になっているゲストがみられます。
- 普段より体力が落ちている 安全管理に非常に敏感になっている
- 行政、報道に洗脳されている。自分からコロナの不自然を考えていこうとしない。
- 体力より精神面において、ストレスを抱えている人が多い
- 近所の目があり、思うように山へ行けないそうです。
- ゲストはマスク&手洗い等をこまめにしているので、少し安心
- コロナへの危機意識が低い
- 色々な価値観・順守協力度/理解度の差がどうしてもある。
- コロナを機にやめた方。体力・気力のために山行を抑えながら続けている方。に分かれたように感じる。
- 誰もそれなりに注意していると思うが個人差はある。
- 注意力が散漫になっている
- 消極的な人もいる
- マスク装着のまま登る人もいる。クルマ乗り合わせでは全員マスクか各自クルマでの移動への理解。
- 近間の安全登山を考えている
- 個人で消毒液など持参して気を付けている人がほとんど。すべてガイド任せでなく「イベントに参加したい」＝「自分で自分の身を守る」という考えの人が多くなっていると思う。
- やはり「万が一感染したら…」ということを経験を理由にキャンセルや参加を遠慮する方も多い
- 山行回数減少による体力、準備不足(忘れ物含む)
- 特になし。感染対策装備説明に、理解されている。
- 山小屋泊の登山は控えている方がまだ多い
- その機会が少ない
- 顧客が離れる
- 体力の不安、宿泊より日帰り傾向がまだあり、山小屋さんの宿泊は躊躇されている模様で、山の下での宿泊だったらという考えの方も多いです。
- 高齢者の顧客は減った。山で何かあったら医療に負担がかかるというかかるという、もしも論を出されてしまったら受け入れざるおえない。
- 行き先や利用するお店や、一緒に活動する他の参加者のことなど、気にされるようになった
- 有
- 体力の衰えについてより注意を払うようになった
- 完全自粛とワクチン接種までは行かない等

### 30. ガイド業務再開に際し問題になっていることがあれば教えてください。

64件の回答

- 参加者が在宅地より目的地に向けて、移動しにくい環境。風評被害的、県またぎ、などの理由で。
- 受け入れの際のPCR実施など、タイミング次第であまり効果がない気がして不安が拭いきれない。
- 山小屋の予約が取りにくい。
- 今後ガイド料の値上げを検討しているが、ガイドレシオの変化とガイド料値上げの実態を知りたい。
- 緊急事態宣言発令などで、予定を立てても中止になるなど、先の予定が立てられない
- 今までのガイド業務の手法や登山の手法を変える必要があるのか？全く違った方法になるのか、3年も待てば以前のような方法で登山ができるのか？個人的には時間が経てばすっかり以前の山登りの仕方に戻っていると思うので、状況が改善するまで待つ以外にないと思っている。
- 引き続き、感染対策を継続。
- 緊急事態宣言、不要不急の外出の自粛、都府県境を超えた外出の自粛と言われると、基本はガイドはできない。その期間が短縮されたり、延長されたりすることも多いので、対応するのに非常に手間がかかる。
- 緊急事態宣言において、ツアー会社によって中止か否かが違う点が不思議。統一すべき。お客が他社に流れかねない。
- 廃業するのが先かもしれない
- ガイドのモチベーションが下がった
- 月末まで延長された「まん防」地域に居住しています。顧客は緊急事態宣言中の都内在住の方も多くおいでです。国や自治体により、さかんに「外出自粛」や「都県をまたぐ移動の自粛」が呼びかけられているなか、業務とはいえ、山行お誘いや実施をしていいものか、つねに葛藤があります。とりあえず2月7日までの緊急事態宣言中も、4月11日までの「まん防」期間中とも、ガイド業務はすべて自主自粛（実施せず）としましたが…。さて11日以降どうするかをいまだ思案中です。これは感染力が高い変異株の脅威を懸念してのことです。また、首都圏からの来訪者が他県であまり好ましく思われていない（とくに行政による制限措置がとられている地域からの…）現状で、あえて県外へ出かけていくことに対する後ろめたさ等々。
- 登山口までの移動でコロナにかかりそう
- 家族に、肺疾患を患った人が出てしまったこと
- 旅行会社とも疎遠になってしまい関係修復は難しい 担当者も変わってしまったなど
- 一人旅顧客の受け入れ。
- 来る人を選べないので自衛しかない
- アルペンルートはケーブルカー、バスも乗車するので感染の不安があります。
- ・緊急事態宣言発出の度にガイドの催行率、参加率が低くなること。・ワクチン接種が進んでおらず、ガイド、お客様、宿泊施設、ともに安心感が薄い。・今後、さらに強力な変異株に変化しても、現状の感染症対策で活動し続けられるのか？
- 登山中の発熱や体調不良が発生した場合の対応方法。
- 指針に沿った対策を講じてても顧客の不安を拭いきれないこと
- 宿泊関係をどうするか検討
- ゲストのコロナ過での参加の遠慮
- 集客
- 感染の封じ込めができなければ再開はできないと考える。
- 今のところ特になし。
- 山小屋の営業云々で、仕事量が変わる
- 集客が以前より厳しくなっていると感じる
- 特にありません。
- 顧客のワクチン接種状況が自治体間でも差があり懸念される
- ツアー会社の指示を待つのみです、オリンピックの再開で顧客の減少があるか、
- ツアー会社のキャンセル
- 宣言下での自粛するか活動するか
- 山小屋のキャンセル料問題。雨天でも決行せざるを得ない。
- 山小屋利用料の課題
- 仕事がない
- マンボウとか、直前に出るため予定が立たない。
- コロナの終息状況
- 旅行会社ツアーとの関り。宣言が出てしまうとすべてキャンセルとなるので。
- 山小屋情報、アプローチ登山道
- ワクチンの摂取進行
- 先が見通せないこと
- クライアントが登山を控えてガイドを依頼しない傾向がある。
- 顧客の体力の掌握
- 変異株の件もありますのでワクチンが大優先
- 職能範囲外ガイドが横行している事
- 顧客の登山への意欲低下、関心の低下。
- 登山姿に、見る目が気になることもある。
- 自分の年齢
- わたしのような無名ガイドは、ただでさえ集客にハードルがあるのに、コロナでさらにハードルは上がっているのかもしれない、と感じている。
- ワクチン接種がいきわたれば、また少し違ってくるかと思いい期待しています
- 特になし（可能な範囲で行っているの）
- その機会が少ない
- なかなかお客様が集まりません。
- この様な中専門ガイドが、必死に工夫をして催行しているガイドを、他のガイドがネットやSNSで行為や、営業行為などの指摘したり否定しているものをたまに見る。身内が身内の足を引っ張っているのかが悲しい。潜在的顧客がそのようなガイド同士のやりとりを見ると、一枚岩でない協会なのだと思わざるおえないと思う。
- その他（なし、特になし、等々）

### 3 1. 行動指針・ガイドライン・協会運営等に対してご意見がございましたらお願いいたします。

49件の回答

- 緊急事態宣言中のお客様はガイド山行に参加してよいのか？ ガイドは仕事だが、お客様にとってはレジャーなので一般的には不要不急に値するのでは？ ガイドラインも特にないので。
- 作成に感謝しています
- 29で書いたように、緊急事態宣言下のガイドや旅行会社は県をまたいで活動は控えてほしいと願う。地方は他県から人が来ることによって感染状況が悪くなるのは明らか。JMGAとしても、そこははっきりと謳うべきではないでしょうか。
- 5月7日付けのお願い文章のような書き方は正しく恐れる手助けになり良いと思いました。顧客に説明する際にも納得しやすいかと思います。
- コロナ対策よりも、国家資格化に向けて早急に取り組んでいただきたい
- もうしばらくは現状のモニタリングが必要ではないかと考えています。当面は現行行動指針とガイドラインをベースに業務継続したいと思います。
- 可能でしたら、緊急事態宣言のときはガイドは自粛、都府県境を超えた外出の自粛と言われるときはそのようなガイドは自粛など、はっきり線引をしていただくと助かります。現状では実施するとなるとクレームがくるし、自粛するといってもクレームをよこす人がいて、その対応に不毛な労力を費やしています。協会のほうでこういう指針を出している、と説明できると助かるのですが、どうでしょうか？
- 今後も情報発信をお願いします！
- ワクチン接種と治療薬の開発で解決されることだ。
- マスコミ報道等で飲食関連の厳しさは盛んに報じられ、十分ではないにしろ制限区域においては制限期間中の補償や支援もありますが、ガイド業務はじめ旅行業の現状に関して触れられることは、飲食やイベント関連等に比してあまりに少なすぎると感じています。昨春、コロナPT行政対応班が政府への働きかけをされたように、いまいちどガイドの窮状とともに、「このような感染対策を施して業務を続けています」「顕著なクラスターなどは発生していません（発生していないですよね）」等、社会全般に業務への理解や支援の要請を訴えていくことも必要ではないでしょうか。
- 団体として指針を示していただけるのは大変ありがたいです。
- 協会はお金を集金するばかりでリターンがないというガイドが多く休会とかしたほうがいいのかよく耳にします。私は山の団体がなくならないように寄付のつもりで払っています。
- ワクチン接種、変異株への対応などで新たな追加項目があれば、改訂版をお願いしたいです。
- 行動指針の策定、ありがとうございました。
- (協会運営とは関係ありませんけど) 1月からの緊急事態宣言の際、内容を読んだ上で仕事をしていました。しかし、所属団体において、仕事をしていることについて、罪の意識を感じさせるような雰囲気嫌でした。副業や定年後に行なっている人なら仕事を全て中止にできるでしょうけど、専業だと彼らと同じようには出来ません。専業が肩身狭い思いをする雰囲気に、違和感がありました。当然、話し合いにならず、専業主体の人たちが多い団体へ移りたいです。一時支援金は敷居が高過ぎて、対象であっても、申請する気になれません。
- 引き続き、ワクチン接種が進んだ際等の変化に合わせたアップデートを期待。
- 研修のオンライン開催などを検討して欲しい
- 集客方法を学べる講習会等があるとありがたいです。
- 特にありません。適切な情報発信に感謝しています。
- ガイド・顧客のワクチン接種徹底が業務再開の最低条件ではないか。
- 参考になっています、今後も続けて下さい
- こんな状況なのに会費は100%徴収するのか せめて50%位に低減すべき
- 今後とも、情報提供をよろしく願います。
- いつも気にかけていただき、ありがとうございます。
- 私達はガイド協会の指針を大切に行動しておりますので情報は早めをお願いします。
- なし感謝している
- 現況を早めにお知らせ戴けること
- 厚生労働省の年間死亡者総数と死因の内訳のデータなど、コロナの不自然な状況から、行政の施策、報道の煽りは明らかに、不当であるのに、当協会は会員の利益を守るステイクホルダーとしての動きを全く行わないのが大変不満。
- ワクチン接種においてはメリットがあるかもしれないがそれ以上にデメリットがある。考え方は様々なはずなのにたった2名の医師の意見で接種について推奨するような配信をするのはおかしいと思います。
- 特にないが、研修費の出費などがキツイ。定年制は続けて欲しい。
- 体力維持(健康)・生きがい・喜び・ストレス解消・・・この時期だからこそ、自然に触れ合う大切さ大事にしたい。
- 仲間(ガイド)の中にも安易に考えている人もいるが、ガイド中お客に感染者が出たら信用は失墜しもうガイドは出来なくなるぐらいに考えてほしい
- 経営相談、販路の拡大、補助金・資金の相談など、商工会が行っているようなサポートを会員が気軽に相談できる窓口が協会にあるといいかな、と思います
- 引き続きよろしくご依頼申し上げます。
- このような中で、運営ありがとうございます。政府や政治でさえこれと決まった事を言えない中での差配大変だと思います。もっとわかりやすい言い回しが必要かとも思います。この環境が1年過ぎました。協会費を1円でも安くすることなどの対応も必要かとも思います。100年に一度の危機であれば、協会もそのような対応をするべきかとも思います。
- その他(なし、特になし、等々)

## ご協力いただきましてありがとうございました。

21件の回答

- ウィズコロナにより、活動範囲が広がった。海外や国内登山の代わりに、テーマを持った登山やネイチャリング、島旅に軸足を移したので、活動に変化はない。これまでの登山一辺倒よりも行動範囲が広がり、今後のあり方にもつながっている。
- 厳しい状況が続いていますが皆さまどうぞ自愛下さい。
- 大変お疲れ様です。がんばりましょう。
- お疲れさまです。よろしく願いいたします。
- この先何年登山が停滞するかわかりませんが、儲けている人は儲けていると思います。自分が淘汰されないように頑張らないと思います。おとしが山の収入が一時的に落ちていたので緊急事態の給付金が少なく前年度とされたことは痛かった。などなど。今年は保証もないから痛いです
- 引き続き情報発信をお願い致します。
- これからも、よろしく願います。このようなアンケートを取っていただける気遣いに、感謝しています。
- ガイド業務は少人数5、6人での山行、現金のやり取りで税務署には申告していない、寄って持続可給付金を申請出来ないが、明らかにガイドの仕事は2/3は減っている。
- ありがとうございます。引き続きよろしく願います。
- 協会はなにもしていなのと同じである。失望だけ
- 以上、宜しく願い致します。
- もろもろ参考にさせていただいています
- 多様な考え、少数意見を尊重、取り入れるべき。
- その他（ありがとうございます、ご苦勞様です、等々）



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 18 番地 丸藤ビル 201 号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@jfmga.com](mailto:office@jfmga.com)

資料 2

令和 2 年 5 月 14 日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 1

—緊急事態宣言一部解除に際して—

公益社団法人日本山岳ガイド協会

特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

ガイド業を行う者にとって、素晴らしい季節が到来したにもかかわらず、先月初めから始まった行動自粛、国からの「外出自粛」要請の流れは収まるどころかさらに強くなっていく気配を受け、ガイドはそれぞれ厳しい状況に晒されています。一方、特定警戒都道府県のうち 8 都道府県を除く 39 の県は、緊急事態宣言が解除され、外出自粛も解かれる方向に進みますが、5 月 14 日の時点では、県にまたがる行動の自粛は継続します。こうした中、スポーツ庁から“感染拡大を予防するガイドラインを業種ごとに作成し実践を求める”との指示が出されました。

日本山岳ガイド協会ではすでに「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応策について」の文書を 4 回、ファーストエイド委員会から 1 回、事業自粛などによる経済的困窮に対してはコロナ対策事業小委員会において国からの助成の広報を随時行っています。また会員諸氏の実情把握のためには 2 回のアンケート調査を行い集計をとったところです。

ガイド協会ではガイドラインの策定にあたってその骨子を医学的・社会的・政治的配慮のもとに検討実施することにいたしました。

### 事業再開に向けたプロセス

次に示すものが日本山岳ガイド協会としてのガイド事業再開に向けたガイドラインの概要であり、詳細は下記に示す。

事業再開は、地域の状況に応じて所属団体、所属会社、会員が最終判断をすることになる。個人ガイド・法人事業者ガイド・契約ガイドなど営業形態や地方在住あるいは大都市在住などにより営業再開の要素は異なるので、一律の再開は難しい。

下記は、「緊急事態宣言」が解除されない北海道、東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、京都、兵庫を除く地方在住の個人顧客を対象とした登山ガイド職能の業務再開のプロセスを想定している業務再開の一例である。(但し、北海道においては、地域範囲が広く、警戒地域は限定された都市部と思われるため、地域の行政の判断に委ねることとなる。)

※当たり前であるが、顧客の安全をはかるのがガイドの業務の第1である。この場合は、感染予防である。その判断は、フィールドで行うことと同様で、ガイド自身が最善の判断をしなければならない。

## 第1段階 緊急事態宣言が部分的に解除された場合

(県をまたぐことへの自粛要請が続いている段階)

↓

在住する県内での業務再開時の想定される対策

- ・日帰り山行のみ
- ・参加者も県内のみから募集
- ・現地集合解散（出来るだけ各自自家用車の利用）
- ・ガイドレシオよりも人数を抑える
- ・登山口の閉鎖・登山口の駐車場の閉鎖の解除を確認
- ・人と人の間隔を2m以上あけることを常に意識する

※歩行時、休憩時共

※呼吸が整わないことも考えられるので、マスク不使用もやむを得ない

と思われるが、その場合、さらに間隔を空ける必要がある（4m程度）

- ・食品のやりとりなどをしないように注意する
- ・往路復路での温泉・道の駅など人の密集する施設への立ち寄り避ける
- ・代金は、振り込みが望ましい（現金の授受を避ける）
- ・歩行時は、ランニング用バフ等の着用をなるべく推進  
(マスクは呼吸困難・暑い)  
※呼吸が困難にならないように十分に歩行速度に注意する
- ・参加当日の検温などをお願いします  
※参加者の体調確認を厳重に行う
- ・混雑が予想されるコースは極力避ける
- ・他登山者との接触にも十分注意する  
など感染に最大限の注意を払うこと

**第2段階** 県境を越える自粛要請が解除された場合

↓

長距離の移動は極力避ける（日帰り）

※登山口付近の旅館・ホテルなどへ宿泊しての日帰りも考慮

(宿泊先での感染なども注意)

他の条件は第1段階に準ずる

**第3段階** 山小屋の再開・幕営地の再開された段階

↓

宿泊の山行再開

※おそらくこの段階では、ワクチンの開発などにより

感染は大きく押さえられているはず。

※ 2次感染、3次感染などが発生した場合で、再び緊急事態宣言が発令される可能性もあり、必ずしも順番に進捗するとは限らない。一進一退の可能性が高いものと思われる。

## 感染拡大を防止するために

個人個人は他人との接触を避ける、日常生活では不要不急の行動を避ける。物体には触らない。頻繁に触るもの（ハイタッチサーフェス）と自分以外の人の手から物を受け取ったときの自分の手はその都度消毒または洗う。

日本山岳ガイド協会は、全国組織であるため都道府県により感染リスクの差が多く、また都道府県別に地方行政の要請に種々の違いがある。

日本山岳ガイド協会ではガイド本人及び全クライアントに降りかかるまたは接触する新型コロナウイルスをゼロにしたいと考えます。したがって地域ごとに新型コロナウイルス感染症の罹患リスクが異なる中でガイド業の実践をスタートされる会員諸氏には、その地方・地域の環境や地方行政の緩和策などを十分検討し、上記のガイドラインを遵守し、プロガイドによる山行は安全と思われるアピールとなる山行を企画運営していかれることを望みます。

以上

追記：このガイドライン概要は、現時点のもので、状況の変化とともに対応策が変わってくる。大きな変化が生じたごとにそれに対応できるように新たなガイドラインを随時発信します。現場で利用できる簡易版ガイドライン（チェックシート）を配布する予定です。



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 18 番地 丸藤ビル 201 号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@ifmga.com](mailto:office@ifmga.com)

令和 2 年 5 月 15 日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 2

—緊急事態宣言一部解除に際して—

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

政府は、5月14日「緊急事態宣言」解除の方向に向けた声明を発表しました。その内容は、15日から実施されるもので「宣言」を継続する特定警戒地域（東京、北海道、神奈川、大阪、埼玉、兵庫、千葉、京都）8都道府県となり残りの39県は段階的な再開を目指し解除が知事の判断のもと実施される見通しです。

日本山岳ガイド協会特別委員会コロナ対策プロジェクトチームでは、これを受けて活動を開始するガイド諸兄ならび登山者の皆様に向けた行動指針を示します。

季節的には、各地で「山開き」などのイベントなども開かれる時期となってきました。そうしたとき、地元完結の県をまたがない登山の実施への第一歩を踏み出せるためにもこのガイドライン Vol. 2 「With コロナの責任あるガイドングをスタートするためのチェックリスト」を参考にしてください。

例えば、ガイド山行中のマスク着用に関する考え方は、街中のジョギングで問題視されている点にも注目してください。ガイド山行中も「もしかしたら自身が感染者かもしれない」「周りにウイルスを撒き散らすかもしれない」という配慮を常にしないとけません。従って、会話をする際はマスク着用が望まれます。しかし、マスクを付けながら登山するのは辛いかもしれないので、ランニング時のエチケットにならない、バフなどの布で口元を覆う方法も有効という考えを念頭に検討していただくようお願いいたします。

## Withコロナの責任あるガイドングをスタートするためのチェックリスト

野外でのリクリエーションは健康増進、ストレス解消や、創造性を高め、あなたやクライアントを心身ともに健康にします。行動制限の解除後の登山を多くの方が待ちわびています。しかし、このパンデミック下においては、今までにクライアントに提供してきたツアー内容がプロガイドとしての責任ある行動とは言えなくなる場合があります。今後、新型コロナウイルス感染症が収束するまでの長い間、新しい行動様式に適したガイドングを行う必要性が生じていると言えるでしょう。そこで、ガイドツアーや講習会を企画する場合は、事前に下記のチェックリストを行って確認してください。ひとつでも該当するようであれば、あなたの行う行動は、プロとしてではなく、この危機的状況におかれているひとりの人として責任あるものとは言えなくなるでしょう。今、もっとも優先すべき事項は登山の技術やクライアントの満足ではなく、あなた自身やクライアントなど他の人々の健康を守る事なのです。

□1 あなたはこの2週間の間、日常生活において3密を避け、出来るだけ他人との接触を避けて健康に過ごしていましたか？ 同様に、あなたのクライアントもそうでしたか？

新型コロナウイルスについては、症状が出現する二日前から他人への感染が生じると言われています。すなわち、今無症状であっても、感染（している場合）を否定する方法がありません。どんなに注意を払っていても、他人との接触の回数が多ければ、感染のリスクが高まります。山行に赴く直前まで、感染しないための最大限の健康管理を行ってきたか確認してください。もし、そうでない場合、あるいは、少しでも体調に異変を感じるようであれば、ツアーの延期・中止を検討すべきです。

□2 居住地(地元)から離れて他府県へのツアーを企画していませんか？ また、クライアントの居住地は確認しましたか？

非常事態宣言解除の有無に関わらず、STAY HOMEと言われている間は、生活に必要な目的以外では家から出ないことが賢明です。今後、外出可能となり、ツアーを計画するのであれば、予定山域の各都道府県のコロナ対策 HPを確認してください。他府県からの来訪自粛を要請している地域への移動は厳に慎むようにしてください。また、ガイド自身やクライアントの居住都道府県のHPを必ずチェックするようにしてください。他府県への移動の自粛要請がなされている場合は行き先を変更するか、都道府県内でのプランに変更してください。また、予定している山域の行政が来訪者の受け入れを行なっていない可能性もあります。さらに、行動エリアに私有地が含まれる場合は特に注意が必要です。地主や地域住民が受け入れを規制している場合は、当該地域への移動および活動はあきらめてください。

□3 山行内容にレスキューが必要とされるような事故の潜在的リスクはないですか？

現在のCOVID19流行に伴い、都市部に限らず地方においても、救急医療の供給体制はひっ迫しています。レスキューや救急搬送、現地での医療機関受診を要するような事故のリスクを潜在的に伴う山行内容は見直してください。また、過去の事故事例を検討して、事故の多いルートは避けるようにしてください。長期の自粛で、ガイドおよびクライアントの体力の低下も考えられます。自粛解除後の登山については、体力や技術レベルを少し低めに見積もった計画から開始してください。

#### □4 1クライアントや他人とソーシャルディスタンスを取ることが出来るルート設定をしていますか？

3密から解放される登山ですが、ツアー中もソーシャルディスタンスを取ることができるようなルートであるか検討してください。登山口に集合した際に混雑が予想されるルートでは、人の少ない山域に変更できるオプションを用意するなどガイドとしての手腕を発揮してください。非常事態宣言が解除されても感染が収束するまでは、3密を避ける必要があります。山小屋・テント泊は密を防ぐ事自体が難しいように思われます。また、ゴンドラなどの移動も閉鎖空間となりますのでルートに入らないような注意が必要です。しかし、ソーシャルディスタンスを重視するあまりに、クライアントの安全管理が疎かになるのは避けなければなりません。そういう意味では、現在、難易度の高いルートやロープを使用するルートは控えた方が無難と言えるでしょう。

#### □5 1行程において地域住民と密に接する可能性はありますか？

下山後の温泉や食事は格別です。しかし、そういった場を提供しているのは、地域のご高齢の方々がほとんどです。高齢になるほど感染した場合の死亡率が上昇します。地域住民の健康に影響を与えないように細心の注意を払いましょう。入山前や下山後は地域での飲食や温泉などの行動を控えて自宅に帰るように心がけましょう。



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 18 番地 丸藤ビル 201 号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@ifmga.com](mailto:office@ifmga.com)

令和 3 年 5 月 19 日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 3

#### —持続化給付金申請簡単マニュアル—

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

会員のみなさまにはすでに申請またはご検討いただいていることと思いますが、改めて公的給付金と環境省の推進事業についてお知らせいたします。

#### 1) 経産省「持続化給付金」

先日集計いたしましたアンケートにおいて、個人・法人の持続化給付金申請について、すでに申請を済ませられた会員もいらっしゃいましたが、まだ申請を行っていない会員および検討中の方もおられることと思います。

会員の中にはすでに給付金の入金された報告もあがってきています。申請手続きを終了した会員からの申請例のレポートが届いていますので、別紙の通り共有をさせていただきます。まだ、申請をお済ませでない方の参考になりますと幸いです。

添付書類 2 例（持続化給付金申請例（個人）、持続化給付金申請例（法人））

経産省 URL

<https://www.meti.go.jp/covid-19/jizokuka-kyufukin.html>

#### 2) 環境省「国立・国定公園への誘客の推進事業費及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業」

環境省の国立・国定公園への誘客の推進事業費及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業の中間執行団体からの応募が本日開始されました。応募締め切りは 6 月 10 日と発表されました。

ガイド業務再開の準備等で忙しくなる時期かと思いますが、地元行政・観光業者と共働して環境整備を行うことのできる、今後のガイド業の新たな形を構築できる可能性のある事業ですので、こちらも引き続きご検討ください。

環境省 URL

<http://www.env.go.jp/nature/np/ryokakuzei00/index.html>

中間執行団体 EIC ホームページ

<http://www.eic.or.jp/eic/topics/2020/wkiv/001.html>

### 3) その他各エリアにおける助成金など

経済産業省の web にもリンクのある、J-Net 21 にて各市単位の助成金等の情報を公表しています。ぜひ、こちらをご参照ください。

<https://j-net21.smrj.go.jp/support/tsdlje00000085bc.html>

帝国データバンクは各都道府県別の助成金について公表しています。こちらをご参照ください。

帝国データバンク

[https://www.tdb.co.jp/corp/corp09\\_covidrelatedinfo.html](https://www.tdb.co.jp/corp/corp09_covidrelatedinfo.html)

今後とも、各地の応募状況や情報の共有など支援事業班ではできる限りの集約を行い、皆様のサポート等を行ってまいります。

会員に有益な情報などがございましたら、支援事業班宛まで、情報の提供をよろしくお願い致します。

年

まず申請の流れは以下の通りです。年

## 持続化給付金の申請手順

1

持続化給付金ホームページへアクセス！

持続化給付金

検索



スマホでも  
できる！



持続化給付金の申請用HP (<https://jizokuka-kyufu.jp>)

2

申請ボタンを押して、メールアドレスなどを入力 [仮登録]

3

入力したメールアドレスに、メールが届いていることを確認して、  
[本登録]へ

4

ID・パスワードを入力すると[マイページ]が作成されます

● 基本情報 ● 売上額 ● 口座情報 を入力

個人事業者等の基本  
事項と、ご連絡先

入力すると、  
申請金額を  
自動計算！

【通帳の写し】を  
アップロード！

5

必要書類を添付

- 2019年分の確定申告書類の控え
- 売上減少となった月の売上台帳等の写し
- 身分証明書の写し

※スマホなどの写真画像でもOK（できるだけきれいに撮ってください！）

申請

持続化給付金事務局で、申請内容を確認  
※申請に不備があった場合は、メールとマイページへの通知で連絡が入ります。

通常2週間程度で、給付通知書を発送／ご登録の口座に入金

年  
年  
年

グーグルなどで経済産業省持続化給付金を検索するとすぐページが出てきます。年



図- 1 実際はこのページの一番下にある持続化給付金の申請方法編。個人事業者用（図- 2）をクリックすれば、丁寧な説明のYouTubeが開きます。年  
とてもわかりやすいので、これを見れば充分かとも思います。年



図- 2 年

年  
年  
年  
年  
年

年 図- 3 年



図- 1 で下方に少しスクロールして「申請受付はこちら」の下にある「持続化給付金」事務局ホームページをクリック。（図- 3）年

開いたページに申請に関する様々な説明が書いてあります。年

年

例えば給付対象者については年

- \* 給付対象は、フリーランスを含む個人事業者。年
- \* 個人事業主でも、2019年以前から事業により事業収入（売上）を得ており、今後とも事業継続する意思があること年
- \* さらに、2020年1月以降、新型コロナウイルス拡大の影響で、前年同月比で 事業収入が50%以上減少した月があること年

注：1月から申請月までの間にひと月でも該当する月があればOK年

\* 給付されない要件や、逆に前年度に何らかの事情で確定申告できなかった場合などに対するの救済的な決まりもあります。それらも詳しく書かれています。年

前述したとおり、ホームページから手順を追えば難しくはないと思いますが、一応次ページから、私が行った手順を説明します。敢えて細かく書き込みましたので、冗長でしたら適当につまんでください。年

年

始めに経済産業省持続化給付金をグーグルで検索します。年  
年

「持続化給付金」事務局ホームページを開きます年  
年

ページ下部の **申請する** をクリック年

持続化給付金申請仮登録の場面が出ます。年

注・この時点ではまだ必要ありませんが、ここに申請に必要な書類が書かれて  
いますので、次に進んだとき必要な申請書類をここで準備しました。年  
以下、準備したもの年

○ 2019年度の確定申告書類年

控の確定申告書別表1（1枚）＝収受日付印があること年

○ 2020年分の対象とする月の売上台帳年

私の場合は4月分0円＝弥生の青色申告を使用しているため、売上傳票を  
添付しました。念のためエクセルでも月別売上台帳を作っているためそれも  
添付年

○ 2019年度4月の売上台帳年

同上年

○ 振り込んでもらう口座の通帳の写し年

通帳の表紙および、表紙を開いた1、2ページ部分。年

○ 本人確認書類年

免許証の表、裏をスキャンしました。年

準備する書類はこれだけです。年

私の場合は、全てスキャンしてPDF化しましたが、デジカメやスマートフォン  
などで撮影した画像でも大丈夫です。但し写りはしっかりした物でなければ  
いけません。年

年

次に仮登録の方法です。年

今開いている持続化給付金申請仮登録のページの「仮登録情報画面」で年

1. 個人事業者を選択年
2. メールアドレスを入力→確認用も続けて入力年
3. 申請にあたっての同意事項を読んで、「全ての事項に同意します」にチェ  
ックを入れる年
4. 次へをクリック年
5. 持続化給付金事務局から「仮登録が完了しました」のメールが届きます。年  
年年

ご自分の受信メールの画面で表示されているURLにログインして本登録へ。年

1, ログインページで自分で決めた「ログインID」と「パスワード」を入力してログすると、申請者情報画面に移ります。年

申請者情報画面で次の作業を行います。年

○宣誓事項年

全てにチェックを入れる年

年

○基本情報入力年

\* 事業形態 個人事業者年

\* 屋号年

\* 本店所在地年

郵便番号 都道府県 市区町村 番地・マンション名年

\* 書類送付先年

郵便番号 都道府県 市区町村 番地・マンション名年

\* 業種年

大分類、中分類、小分類と三段階有りますが、残念ながら山岳ガイドという職種はないので、大＝サービス業（谷分類されないもの）、中＝その他のサービス業、小＝他に分類されないサービス業を選択しました。年  
通常の確定申告書では「山岳ガイド」と書いていますが、ここでは選択するのみでしたので。年

\* 設立年月日（開業日）年

私は個人事業ですので、個人で始めた日付を書き込みました。年

\* 代表者氏名年

年

\* 続いて、代表者のフリガナ、生年月日、電話番号、メールアドレスを入力年

年

○特例適用の選択年

\* 「一般的な申請方法（下記特例次項に該当しない）」にチェック年

以下に特例が羅列されていますが、該当しないので。年

\* 確定申告書の名前と申請内容年

同一です年

\* 代表者氏名と口座名義年

同一です年

年

○売上入力年

\* 年間事業収入（A）年

2019年度確定申告書より転記年

\* 売上減少の対象月年

4月年

\* 月間事業収入（B）年

0円（2020年4月期）年

\* 売上減少の対象月の前年度売上年

2019年度の4月期の売上額年

ここまで入力すると次の年

\*  $A - B \times 12$  は自動的に計算されて数字が入ります。年  
年

○ 給付予定額年

\* 給付予定額も自動計算で数字が入ります。年  
年

○ 口座情報入力年

\* 種別 普通口座 続いて、金融機関コード、金融機関名、支店コード、支店名、口座番号、口座名義を入力年

\* 通帳の表面年

PDFを添付年

\* 通帳を開いた1 / 2ページ年

PDFを添付年

PDFの添付については [ファイルを表示](#) の枠がありクリックすれば添付出来ます。以下同様です年  
年

○ 添付書類年

以下の書類を添付します。年

\* 2019年度の確定申告書第1表（青色または白色）、\* 2020年の対象月の売上台帳（売上減少の対象月と同じ月の売上台帳）、\* 本人確認書類（1）＝運転免許証表面、\* 本人確認書類（2）＝運転免許証裏面年

運転免許証の場合は表裏を添付すれば良い。年  
年

これで入力は終わりです。申請します。その後の流れは以下の通りです。年

申請後の流れについて

**申請手続完了**

持続化給付金事務局にて、申請内容を確認  
※申請に不備があった場合はマイページへ連絡が入ります

**通常2週間程度で、給付通知書を発送**

**ご登録の口座に入金**

年

ちなみに私は5月2日に申請を済ませました。申請番号は〇〇〇〇です。年  
まだ2週間が過ぎていませんので、入金はありません。本当に入金されるのか  
ちょっと不安なところもあります。年

当会(MIJ)会員のMさんは、なんと5月1日に申請して申請番号が4桁。  
5月8日に上限の100万円入金があったそうです。年

なんと、本日「持続型給付金の振り込みのお知らせ」が届いたそうです。順  
序が逆ですね。年

年

以上、ご連絡いたします。年

年

年

給付金に関するお問い合わせ

**持続化給付金事業 コールセンター**

**0120-115-570**

**IP番号 03-6831-0613**

受付時間 8:30~19:00

5月・6月(毎日)、7月~12月(土曜日を除く)

年

年

## 持続化給付金申請の手順(法人編)

持続化給付金に関して、やり方が良くわからない、スマホからも出来るのか？との問い合わせ多くあったので、再度、お知らせします。

手順に関しては、経済産業省の website に詳しく掲載されていますが、再度まとめてみました。

① スマホあるいはパソコンの google あるいは Yahoo などの検索画面もしくは docomo なら dメニューから『持続化給付金』を検索します。

→ 持続化給付金 (METI/経済産業省) を選択します。

② 持続化給付金の解説ページが開きます。(ここをよく読んでください。)

ページを下に移していくと、持続化給付金に関するお知らせ (PDF 形式: 817KB) という項目があります。このファイルを開くと 4 ページにわたり解説されています。

一番最初に、持続化給付金とは、簡単に説明があります。

※ 入力項目のページと用意する書類が記されているページを印刷しておくといはいいです。印刷出来ない場合は、書き写しておくといはいいです。

**まず、入力方法のページです。**

・ 基本情報とあり ① 法人番号 ② 屋号・商号・雅号 ③ 本店所在地 ④ 書類送付先 ⑤ 業種 ⑥ 設立年月日 ⑦ 資本金 ⑧ 従業員数 (名) ⑨ 代表者役職 ⑩ 代表者氏名 ⑪ 代表電話番号 ⑫ 担当者氏名 ⑬ 担当者電話番号 ⑭ 担当者携帯番号 ⑮ 担当者メールアドレス ⑯ 直近年度の売上金額 ⑰ 決算月 ⑱ 今年の売上減少月の金額

及び口座情報として

① 金融機関名 ② 金融機関コード ③ 支店名 ④ 支店コード ⑤ 種類 ⑥ 口座番号 ⑦ 口座名義人です。これらの項目を印刷してあらかじめ下書きしておきましょう。

※ 記載事項を忘れた場合は、法務局で登記簿謄本などをおとておくことが必要です。

※ ここで問題になるのは、業種です。ガイド業が日本産業分類には記載されていません。

そこで、私の場合は、大分類…サービス業、中分類…その他のサービス業、小分類…他に分類されないサービス業を選択しました。

**次に申請に必要な書類のページをみます。**

A. 2019 年 (法人は前年事業年度) 確定申告書類の控え

※ 会計士さんを契約されている方は、会計士さんに依頼して用意しましょう。

図も示されていますので、そのページを用意しましょう。

確定申告別表 (実物は青いページ、左上に電子申告済と記されています。) 及び法人事業概況説明書 (控用という表題のもの) 及び (事業形態 1. 兼業の状況 2. 事業内容の特殊性など記されているもの) の 3 枚を用意します。

用意したらパソコンならプリンターを起動してスキャンして PDF ファイルもしくは写真で

JPEG で保存します。保存するサイズを 10MG 以下にしてください。スマホの場合は写真を一枚ずつとり保存します。

#### B. 売り上げ減少となった月の売り上げ台帳の写し

これはエクセルを使い作表します。タイトルを一番上の段に申告する月の売り上げ台帳とします。(例えば、4 月なら 2020 年度 4 月度売上台帳とします。)その横に社名を入れます。一番左に日付の数字を一コマずつ 1 から月末まですべて入力していきます。見本のようにつくれば良いです。エクセルが使えない場合は手書きでも申請できますので、手書きで作表します。ここで重要なことは、各日の売上を 0 円で、合計を 0 円とすることです。これもスキャンして保存します。スマホなら写真をとり保存します。

#### C. 通帳の写し

これは会社で使用している新しい通帳の表紙と表紙を開いて 1 ページと 2 ページの部分の 2 枚をスキャンします。スマホなら写真を撮り保存します。

最後に持続化給付金の申請方法のページに進みます。ここをよく読みましょう。

ここまで出来たら、ページを最初に検索した経済産業省の持続化給付金のところまで戻ります。今度は、「申請は、こちら」と言う項目があり、「給付金申請」事務局ホームページとあるところをクリックします。

- ③ クリックしたら、中小企業庁の持続化給付金の申請ページが開きます。ここにも経済産業省のページ同様に持続化給付金の説明や申請・受け取りについて、申請方法などが記されています。申請サポート会場も紹介されていますので、これを読んでもわからない場合は、この記載の会場へ行けば対面で教えてもらえます。

ページを下に見ていくと、大きく申請するとオレンジ地に白抜き文字で記載されているボタンがあります。ここから、いよいよ申請の開始です。この大きなボタンをクリックすると、仮登録のページが開きます。

- ④ メールアドレスなどを入力して仮登録します。登録したメールアドレスへ自動的にメールが送信されますので、自分のメールソフトを開き、ID・パスワードを設定して本登録します。

マイページが開くので、②で用意した項目の入力ページが開きますので、順番に落ち着いて入力しましょう。用意した資料(JPEG 写真やスキャンした PDF ファイルも所定の位置で開きます。早く入力する必要はありませんので、落ち着いて入力続けて下さい。一つ一つ確認して間違いのないようにして下さい。最後に全ての項目の確認をしてから申請します。

- ⑤ 以上で手続きを終えますが、その後、不備があった場合は、およそ 2 週間で連絡が届きます。マイページを開くと、どこが不備か記されていますので、修整して再度申請ボタンを

押して再びメールを待ちます。不備がなければ、そのまま通知が届き振り込みを確認されます。この方法は随時改善されているので、必ずしもこの通りではないかもしれません。私の場合 5 月 1 日に申請して不備通知が届き、修整して最申請をし、結果待ちをしているところです。(5 月 17 日現在)



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 18 番地 丸藤ビル 201 号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@ifmga.com](mailto:office@ifmga.com)

令和 2 年 5 月 22 日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 4

—一部業務再開に向けての検証実験報告—

～マスク・ソーシャルディスタンスなどの実際について～

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

5 月 15 日付「新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 2 —緊急事態宣言一部解除に際して—」でご案内しました With コロナの責任あるガイディングをスタートするためのチェックリストに沿って実際に検証実験を行いました。

その結果を以下の通りご案内します。また各種バフについて当会賛助会員各社の商品も参考として記載してあります。

皆様のガイド山行再開の一助となれば幸いです。

# 一部業務再開に向けての検証実験報告

～マスク・ソーシャルディスタンスなどの実際について～

報告者：福田正浩・上野真一郎

## 基本情報

特別委員会委員長上野が実施責任者として行う。

実施日	2020年5月17日(日)	気温	最高気温 24℃	曇りのち晴れ
行動開始時間	9:00	全ての終了時間	15:00	
実施場所	高草山(501m) 静岡県沿岸部の都市間にある里山 沢沿い林道から尾根のハイキングコースへ			
ガイド	上野 真一郎、福田 正浩(両名とも静岡山岳自然ガイド協会所属。静岡県在住ガイド)			
顧客役	3名(静岡市在住の上野友人・登山歴長い/60代女性・医療従事者および50代夫妻)			

## 主な検証内容

①人と人との間隔を、マスク着用でも2m以上あけることが出来るか？(歩行時、休憩時共に)

※マスクを着用しない場合、4m以上あけること

②マスク・ランニング用バフなど使用時の呼吸など歩行時にどの程度の影響がでるか？

③顧客の体調管理について、どこまで可能か

## 検証結果

☆対人距離の保持について

- ・集合場所が、国一沿いの道の駅のため騒音ひどく、さらにマスク着用で声が聞き取りにくかったため、声を聞こうと距離がつまりがちになった。
- ・2mの間隔を空けて歩いている間、メインガイドが何を言っているか最後尾からでは聞き取りづらかった。
- ・自然解説の際、たとえば植物に注目する際、お客様の意識と視点はその対象物にいくので、お客様同士の距離は次第に近くなっていて、2mの間隔は保たれていなかった。
- ・他の登山者(トレイルランナー等)とすれ違う際、その方がマスクをしていない場合、登山道が狭い場合4m以上の間隔は保てない。
- ・途中、集落を抜ける中、住民はマスクをしていないが、挨拶を交わす。(住民からは嫌悪感や敵視するような感じは受けなかった。通常時同様、どこへ行くの？などの会話がされる。)

☆マスク・バフなどの使用感想およびその他の影響

ランニング用バフ、布マスク(手作りマスク)、不織布マスク、バンダナ、手ぬぐいを試すこととした。

- ・息苦しさ・暑さは 不織布マスク > バフ > 布マスク > バンダナ・手ぬぐい の順であった。
- ・不織布マスクはとにかく息苦しく暑さで蒸れる。
- ・バフはマスクよりも通気性は良いが、首元まで覆われると暑い。

これからの季節は登山中の着用は難しいのでは？との声も挙がった。

※手製のマスクでクールマックスのような冷感素材を使い、紐を後頭部でコードロックを付けて固定出来るようにしたものを使った人は比較的、呼吸も楽で蒸れなかったと感想を述べていた。形状は、二等辺三角形の布地の頂点を下にして垂らした形であったため、下部が解放されていて呼吸もしやすく蒸れないとのこと。

※マスク・バフは、顔を大きく覆うことで、熱中症の原因と成り得るリスク有りと感じた。

※当然ながら傾斜がきつくなると呼吸も荒くなり覆うことで酸欠気味になる感じ。

※行動中、特に急坂で、自分の呼吸が荒くなり、声かけするのが困難になる。

※声がマスクなどでこもってしまい聞こえにくい。

☆顧客の体調管理に対して

・当日の朝の検温をお願いしてあったが、忘れていた。検温は習慣的に行っていないと無理かもしれない。

また、ここ2週間の行動での密集密閉した施設への立ち入りの確認も、実際には難しい。

仮にパチンコ、ジム、ライブハウスなど話題の施設を避けていたとしても、不要不急ではないと言うスーパーマーケットやベーカリーへの買い物が密集した施設になっているケースもある。

## 今後への提案・参考

---

・オリエンテーション、準備運動時、歩行時、休憩時など全ての行程において間隔をとるように、徹底し繰り返しの声かけを行う。自然解説時も、人が集まりがちなので、特に注意が必要。

・顧客の健康把握は、かなり手間を感じた。事前に十分な連絡が必要と思われた。

(顧客に事前に渡す簡単な健康管理のチェックリストを作成しておくが良い。)

・ポケット付きマスク (ポケットに保冷剤を入れるタイプ) も熱がこもるのは防げる。

・素材冷却型のマスクも市販である。

・通気性でいえば、バンダナ・手ぬぐいなどは有効である。ただし、ズレやすい。

・透明のフェイスカバーは試さなかったが、おそらく呼吸は楽だと思われる。日焼け防止などの市販品もある。

・一人の参加者が作成されたような下部 (首側) が解放されているマスク様のもの (下写真左と中/右端の方着用) は、通販サイトでも類似品 (下右写真) が販売されているので、そういったものを顧客にも紹介できる。

・バフは、低山の高温時期は使用が難しいが、ある程度の標高の高い山で気温が低い状態なら使用出来る。



以上

<各種バフ…賛助会員のお勧めの製品>



キャラバン N-rit ネックゲイター「クール」



パタゴニア サン・マスク



ミレー ネットウィーマー



マムート ネットゲーター



モンベル フィールドマスク



ホグロフス ネックゲーター



TNF ジブシーカバークイットショート



Icebr eaker クールライトフレクシーシュート



モンチュラ オールアラウンドネックチューブ



OR アクティブアイスアーバークューブ

※ただし、バフ（ネックゲイター）は製品によって口を覆う位置で固定できないものがありますので、各社へマスクの代替えとして利用出来るかご確認の上、ご購入下さい。



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 18 番地 丸藤ビル 201 号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@ifmga.com](mailto:office@ifmga.com)

令和 2 年 5 月 23 日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 5 一段階的ガイド業務再開のロードマップ

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

この度、5月15日に発令された39県緊急事態宣言解除を受け、ガイド協会のプロジェクトチームでは、医療班のバックアップのもと、段階的ガイド業務再開のロードマップを作成いたしました。今後は速やかにこのロードマップを実施要領として行動指針を作成し、共有させていただきます。

会員のみなさまには、ロードマップ及び行動指針をご参照いただき、感染拡大防止策を十分にとって業務を段階的に再開してください。登山を愛する方々の健康増進のサポートなど、我々ガイドが行える活動を通じ、社会貢献及び登山業界の早期回復に向けて共に歩んでいきましょう。

緊急事態宣言解除後の段階的ガイド業務再開のロードマップ

STEP 1 (厳戒体制)	STEP 2 (限定解除)	STEP 3 (解除拡大)	STEP 4 (注意継続)
行政	緊急事態宣言発令中 特定警戒都道府県の指定 自治体からの移動や活動に関する制限要請 (*1)	緊急事態宣言解除 特定警戒都道府県の指定解除 自治体からの移動や活動に関する制限要請 新しい生活様式を取り入れた日常生活に慣れる までの移行期間 制限あり (*2)	新規発症の途絶、治療法の確立、ワクチンの普及などに伴う社会活動の正常化
日常生活の行動様式	STAY HOME 制限あり (*2)	新しい生活様式を取り入れた日常生活 制限あり (*2)	アンターコロナの生活様式 平時の活動
救助機関の状況	制限あり (*2)	概ね正常 (*2)	平時の診療体制
医療機関の状況	制限あり (*3)	概ね正常 (*2)	平時の診療体制

STEP 1 (厳戒体制)	STEP 2 (限定解除)	STEP 3 (解除拡大)	STEP 4 (注意継続)
居住地	居住地や活動山城の自治体の要請に則る	活動範囲によるゾーンをSTEP 2で 検討し算定 居住地やリスク因子に加え、体カや技術面も加味して判断 感染ハイリスク (*4) のクライアントの参加自粛 国と地方自治体の要請に則る	制限なし
人数	行程を通じて密を避けられること クライアントの50%以下を推奨	STEP 2で抽出された課題や問題点を検討し、 エリアやリスクなどの面で業務を拡大、 詳細は随時更新	制限なし
構成	自宅用車使用・現地集合解散。乗り合い、や公共交通機関利用時は感染防止対策 (*5)		制限なし
リスク因子	中級者向け一般登山道 行動の時間程度まで (*6) クライミングにおいてハングルやトロッロウを推奨 共にセルフレスキューが可能なこと 慎重に判断、家族以外は一入用テント推奨 個室利用推奨 (家族は同部屋利用可) 行動指針の習熟と実践		平時の対応
移動 (交通機関)	全てのガイド業務の自粛		
ルート・山城設定条件			
山小屋			
テント泊			
宿泊施設			
感染対策のための行動規範			

STEP 移行の判断基準

STEP 1 からSTEP 2	STEP 2 からSTEP 3	STEP 3 からSTEP 4
緊急事態宣言の解除、および、特定警戒都道府県指定の解除をもって移行 (ただし、緊急事態宣言発令中であっても都道府県内の一部の地域のみ流行中で、他の地域での経済活動や移動制限がない場合は各都道府県からの通達を参照してSTEPを移行する)	1. Withコロナのガイド指針の習熟・実践 2. 救助・医療体制が正常に機能 3. 登山・交通インフラの体制整備 (移動制限の解除、山小屋のオープンなど) 左記が全て満たした時に移行	新規発症の途絶、治療法の確立、ワクチンの普及などに伴う社会活動の正常化

注釈

※1 自治体からの移動や活動に関する制限要請	緊急事態宣言や特定警戒都道府県指定の有無に限らず、居住地・主要山城の都道府県からの移動制限の可能性があるため、各自が自治体から情報収集を行うように努める
※2 救助機関の状況	防災へり、興奮へりなどの対応について：感染が危惧される環境下で活動に制限が生じている可能性があるため、主要山城を中心に情報収集を行い、協会員に広報するよう努めます。
※3 医療機関の状況	各地域の救急医療体制の状況について：新型コロナウイルス対応に伴い診療体制に制限が生じている可能性があるため、主要山城を中心に情報収集を行い、協会員に広報するよう努めます。
※4 感染ハイリスク	65歳以上、または、慢性呼吸器疾患、中等度〜重症の気管支喘息、重篤な心疾患、免疫不全患者 (免疫不全の状態を引き起こす原因としてがんの治療、喫煙、骨髄移植、臓器移植、HIV感染症、ステロイドやその他の免疫抑制薬の長期使用など)、糖尿病、透析、慢性腎臓病、肝疾患
※5 自動車乗合、公共交通機関など利用時の注意点	換気に配慮してマスクを着用する、ドアなどのハンカッチサーフェスを触った手で顔や食品に触れない (手指衛生の徹底)、混雑を避ける
※6 ルート・山城設定条件	自然ガイド・登山ガイドにおける、ガイド対顧客標準人数比率に係る規定、中級者登山道の範囲、余裕を持った行動時間に配慮
※7 山小屋・テント泊	テント泊も含めて平時よりも定員を制限して営業するとともにありますので、必ず事前の確認や予約をお願いします。また、制限下であっても予定外の緊急避難的な受入により、3密回避が困難になりかねない環境であることを理解してご利用ください。
※8 行動指針	Withコロナの責任あるガイドメントのための行動指針



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 18 番地 丸藤ビル 201 号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@ifmga.com](mailto:office@ifmga.com)

令和 2 年 5 月 29 日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 6

— 行政への要望書提出の報告 —

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

日本山岳ガイド協会特別委員会コロナ対策プロジェクトチームでは、2回に渡る会員へのアンケートの集計データから明らかになった山岳ガイドらの業務機会の急速な減退等の状況を受け、こうした状況の改善へのより一層の支援を求めることを目的に、要望書を取りまとめ、関係する省庁に対して発出しています。

5月26日には本郷浩二林野庁長官宛てに郵送で、また5月28日には厚生労働省に橋本岳厚生労働副大臣を訪ね、加藤勝信厚生労働大臣、萩生田光一文部科学大臣、小泉進次郎環境大臣を連名で宛先とする要望書を、それぞれ提出（または提出取次依頼）をいたしました。

要望書の骨子は宛先により差異がありますが、つぎのとおりです。

- (1) 今般の新型コロナウイルスの感染拡大と、それに伴う自粛要請、緊急事態宣言の発出による山岳スポーツ愛好者の自然体験機会の縮小は、山岳地域の案内を生業とする本会の会員（以下「山岳ガイド」という）の就労に大きな影響をもたらしている。
- (2) 4月27日に山岳ガイドらに対して実施した「第2回新型コロナウイルスにおける影響に関するアンケート」では、4月初旬から5月中旬にかけてのガイド業務実施状況に関する設問に対して、8割強の者が「4月1ヶ月間のガイド業としての収入が殆どなかった」と回答し、大変厳しい状況下に置かれている。

このような現状を踏まえ、「新しい生活様式」が日常生活に取り入れられた後においても、山岳スポーツが健全な体育として国民の間で適切に継続されるよう、次の事項を要望しました。

- 1) 関係省庁におかれましては、休業状況にある山岳ガイド業者に対する休業補償等の経済支援策の実施を今後も継続していただきたい。
- 2) 緊急事態宣言の一部解除に際して、再開されるガイド業務については、本会が予め策定した「新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン」に当然沿ったものであることを、ご理解いただきたい。

- 3) 緊急事態宣言の解除以降に各地域において企画開催される山岳スポーツ振興に寄与する催事等について、積極的なご支援をいただきたい。
- 4) 厚生労働省編職業分類による職業分類表では【42 その他のサービスの職業】項目のなかに421【添乗員、観光案内人】はあるものの、極めて専門性の高い職種である【山岳ガイド・登山ガイド・自然ガイド】は独立した分類がなされていないことから、厚生労働省においては【山岳ガイド・登山ガイド・自然ガイド】を独立した【職業】としてお取り扱いいただきたい。
- 5) 林野庁においては現在進められている森林サービス産業振興策の一環として、健康・観光分野での野外活動を伴う活動について、その安全管理者としての山岳ガイド等の雇用を関係実施団体様に啓発（推奨）していただきたい。

なお、5月28日の橋本厚生労働副大臣への要望書提出については、5月29日NHK番組「おはよう日本」、およびNEWSWEBで報道されました。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200529/k10012449691000.html>



厚生労働省副大臣室にて要望書を提出（提供：橋本岳事務所）

以 上



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 18 番地 丸藤ビル 201 号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@ifmga.com](mailto:office@ifmga.com)

令和 2 年 6 月 2 日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 7

#### —新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針—

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

この度、ガイド協会コロナ対策プロジェクトチームでは、5月23日に配信しました業務再開のためのロードマップを、さらに具体的な対応策として落とし込んだ行動指針を作成しました。医療班のメンバーを中心に作成され、今後の新たな登山様式とガイド活動に、いかにCOVID19に対するリスク管理を入れ込んでいくかを主眼に、STEP2にあたる現段階では安全マージンを広く取った内容となっています。今後の段階的なガイド業務再開にお役立てください。

なお、今後しばらくはSTEP2の段階での活動となりますが、本来の任務であるクライアントの安全管理に、新たにCOVID-19のリスクを加えた対応となります。まずは、誰も経験したことのない、新たなガイド形態を整えることに主眼を置いています。今後は、各自治体の要請や指針、医療・救助機関の状況、登山インフラの体制、COVID-19に対応した新たなスタイルへの習熟度をもとに、業務の範囲を最適化していくこととなります。STEP2からSTEP3への段階的業務拡大にあたっては、現場の声を反映していく方針です。近日中に協会ホームページに随時利用できるアンケートページを設置いたします。そのフィードバックを元に今後の行動指針を更新する予定です。ぜひ、新たな登山様式とガイド活動について、現場で活動されるみなさまの声をお届けください。

以 上

# 新型コロナウイルス感染症 拡大防止のための行動指針 第1版

With コロナのガイド指針

～感染に起因する諸問題への配慮～

2020

# 目次

---

## 1 はじめに 3

## 2 目的 4

## 3 新型コロナウイルス（SARS-Cov-2）について 4

伝播様式/臨床像

## 4 各 STEP と可能なガイド業務 7

Step1/Step2/Step3/Step4/Step 移行の判断のための情報収集

## 5 感染拡大防止のための行動指針 12

登山計画/装備/山域までの移動/登山口での注意事項/山行中の行動指針/下山後の注意点

## 6 巻末資料 24

### 【新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動指針編集委員（五十音順）】

---

浅井 悌（救急科専門医、利尻島国保中央病院、JMGA ファーストエイド委員）

伊藤 岳（救急科専門医、兵庫県立加古川医療センター、JMGA ファーストエイド委員）

今井 通子（医学博士、JMGA 特別顧問）

恩田 真砂美（JMGA 訪日外国人対応委員会担当理事、国立登山研修所専門調査委員）

近藤 謙司（JMGA 国際委員会担当理事、全国山の日協議会運営委員）

佐々木 大輔（JMGA 広報委員会担当理事）

島田 和昭（JMGA 特別委員会事業再生班、好日山荘登山学校講師）

高橋 撰（JMGA 広報委員）

千島 康稔（国際山岳医、JMGA ファーストエイド委員）

橋本 しをり（国際山岳医、JMGA ファーストエイド・ICAR 担当理事）

## 1 はじめに

---

日本山岳ガイド協会では、役員改選による新体制が発足した5月12日から、新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）対策のために特別委員会コロナ対策プロジェクトチームを立ち上げ、この問題に対して協会の総力を挙げて取り組んでいます。緊急事態宣言が政府より発せられた中「登山自粛」もより大きく報じられ、これによりガイドは、業務を自粛し、失職の状態に陥ってしまいました。この状況下で、何とかガイド事業を再開する手立てはないものか、これがコロナ対策 PT の重要課題となっています。その理由は COVID-19 を登山中の様々なリスクの一つとして捉える必要が生じているからです。ガイドにとっては、今までのガイディング技術に加え、新たにコロナウイルス（以下 SARS-Cov-2）に対する感染防御対策をする事になります。しかし、SARS-Cov-2 に対する感染対策を重視するあまりに、クライアントケアが担保できないガイディングとなるのは本末転倒といえるでしょう。

現在、SARS-Cov-2 感染防御のための指針が様々な機関から発表されています。野外環境においては、ウイルス対策のみならず様々な視点から山行中のクライアントの安全を守るために必要な指針を策定する必要があります。当協会としては、医学的根拠に基づきながらも野外環境でも可能な行動指針を、各専門家の意見を集約して作成してきました。今般、社会に未だ制限がある中でのガイド業務開始となるため、安全マージンをしっかりととったプランニングを行う必要があると考えています。本指針を会員の皆様が参考にされ、感染拡大を防止しながらガイド業務を再開する一助となることを期待します。

2020年5月

理事長 武川 俊二

## 2 目的

---

緊急事態宣言解除に伴う社会活動の段階的な開始に伴い、当協会は業務再開のロードマップを示し、今後、感染防止策をとった上で業務を徐々に再開することになった。再開に当たっては、実用性がありかつ医学的根拠に裏付けされたものであることを念頭において行動指針を作成した。本ガイドラインの目的を以下に示す。

- ・全ての会員に医学的見地に基づき、感染拡大を低減する行動指針を提供する
- ・感染拡大防止策を十分にとった上で、会員に段階的な業務再開を促進する
- ・感染拡大防止策を推進することでガイディング中における感染リスクを低減する

## 3 新型コロナウイルス（SARS-Cov-2）について

---

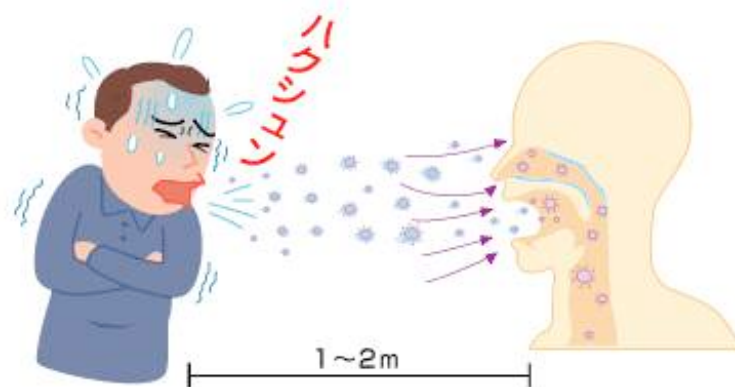
これまでにヒトに感染するコロナウイルスは4種類が解明されており、感冒の10～15%を占める病原体として知られていた。2002年中国に端を発した重症急性呼吸器症候群(SARS)、2012年にはアラビア半島で中東呼吸器症候群(MERS)が報告されている。そして、2019年中国湖北省で発生した原因不明の肺炎は、新型コロナウイルス（以下、SARS-Cov-2）が原因であることが分かった。このSARS-Cov-2によって引き起こる感染症を新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）という。

### 3.1 伝播様式

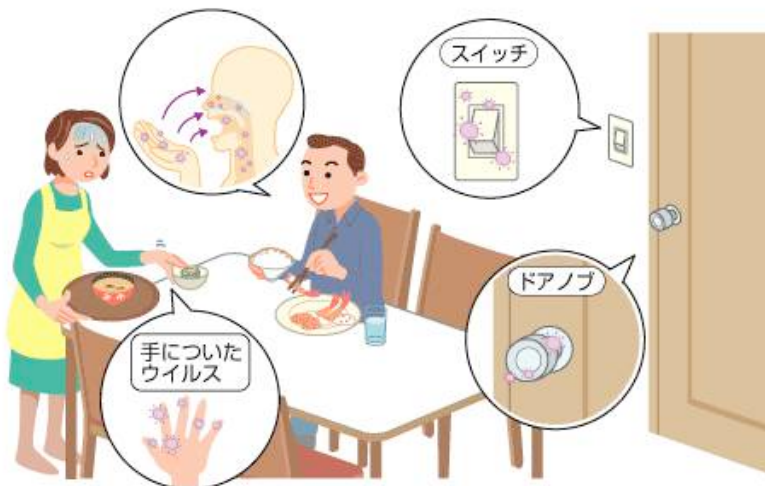
#### 【感染経路】

飛沫感染（図1）が主体と考えられており、密室など換気の悪い環境では、咳やくしゃみがなくとも感染すると考えられている。また、よく触れる場所（ハイタッチサーフェイス）からの接触感染（図2）もあると考えられる。症状のあるヒトが感染伝播の主体だが、無症状のウイルス保有者からの感染リスクもあることがわかってきた。

(図1 飛沫感染のイメージ)



(図2 接触感染のイメージ)



#### 【潜伏期間・感染可能期間】

潜伏期は1～14日間であり、WHOによると暴露から5日程度で発症することが多いと言われている。発症してから徐々に感染性が高まる MERS や SARS と異なり、初発症状が出現した時点ですでに多くのウイルスが体外に排出されており、これが、感染拡大の原因となっていると言われている。

感染可能期間は、発症2日前から発症後7～14日程度と考えられている。SARS-Cov-2 は上気道(咽頭など)と下気道(肺胞)で増殖していると考えられ、重症例ではウイルス量が多く、排泄期間も多い傾向にある。発症から3～4週間、病原体遺伝子が検出されることも稀ではない。なお、血液、尿、便から感染性のある SARS-Cov-2 を検出することは稀であるようだ。

### 【季節性】

コロナウイルス感染症は温帯では冬季に流行することが多いが、COVID-19については不明である。

## 3.2 臨床像

### 【症状】

多くの症例で発熱、セキや咽頭痛、鼻水、鼻づまり、頭痛、倦怠感（だるさ）などが見られる。下痢や嘔吐などの消化器症状の頻度は多くても10%未満であると言われている。初期症状は、季節性インフルエンザや感冒に似ており、インフルエンザ流行期にはCOVID-19との区別は困難である。味覚や嗅覚の異常を訴える感染者が多いことも分かってきた。イタリアの報告では、約3割の患者で味覚あるいは嗅覚異常があり、特に若年者、女性に多い。

### 【一般的な経過】

発症から医療機関受診までの期間は約5日間、入院までの期間は約7日間と報告されている。症例によっては、発症から1週間程度で重症化し集中治療室での治療が必要となることもある。

### 【重症化リスク因子】

65歳以上、または、慢性呼吸器疾患、中等度～重症の気管支喘息、重篤な心疾患、免疫不全患者（免疫不全の状態を引き起こす原因としてがんの治療、喫煙、骨髄移植、臓器移植、HIV感染症、ステロイドやその他の免疫抑制薬の長期使用など）、重度の肥満（BMI40以上）、糖尿病、透析・慢性腎疾患、肝疾患の患者では致死率が上昇する。

### 【治療薬】

本行動指針作成時点では、COVID-19に対する抗ウイルス薬による特異的な治療法はない。解熱剤や呼吸補助療法など症状に対する治療（対症療法）が主となる。

### 【感染予防策】

本行動指針作成時点では、COVID-19に対する有効なワクチンは存在しない。感染予防のためには、不要な人との接触を避ける、密閉・密集・密接の3密をできるだけ避ける、こまめな手洗いや手指衛生、咳エチケットの順守といったことが重要である。

## 4 各 STEP と可能なガイド業務

緊急事態宣言解除後の業務再開の段階的な指標としてロードマップ（5/25 配信、Vol.5）を作成した。SARS-Cov-2 については、未だ不明な点が多いため、現時点で根拠となる情報を元に、4 段階の業務再開手順を記した。しかし、今後の感染状況次第では、再開、拡大した業務を制限する、すなわち、Step を下げる必要がある事も考慮しなければならない。

※当協会のロードマップの“Step”と東京都はじめ他の自治体が提唱するロードマップにおける“ステップ”とは関連性はない。

段階的ガイド業務再開のロードマップ（簡易版）					
項目		STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
判断 要因	行政	厳戒体制	限定解除	解除拡大	注意継続
	日常生活	自粛要請	自粛→新しい生活様式	新しい生活様式	注意しながら日常生活
	救助機関の状況	×	×～△	△～○	○
	医療機関の状況	×	×～△	△～○	○
業務 内容	クライアント	全てのガイド業務の自粛	年齢、ハイリスクグループ、体力などで制限	制限を段階的解除	制限なし
	行動エリア		限られたエリア		
	移動（交通機関）		感染対策して利用		
	ルート・山域設定条件		容易なルートから		
	山小屋・テント泊		慎重に判断		

## 4.1 Step1（厳戒態勢）

Step1 では、行政からの強い自粛要請のメッセージが出されており、医療供給体制のひっ迫が予想されるため、レジャーである登山に対するガイド業務は自粛する必要がある。ツアーを開催できない代わりに自粛中の体力低下を防ぐためのトレーニング法などをクライアントへ提供するなどする。さらに、緊急事態宣言が再発令される事も想定して、クライアントにオンラインでの講習会を提供できる環境を整える事を推奨する。

## 4.2 Step2（限定解除）

### 4.2.1 Step2 の状況

非常事態宣言、特定警戒都道府県の指定が解除され、STAY HOME から新しい生活様式への定着までの期間を Step2 と位置づける。この段階では、感染症流行の地域差や特定の地域で再流行の兆しが見られるなど、一部の医療機関や救助体制が万全ではない事も予想されるため、可能な限り社会に負荷をかけないように業務を再開しなければならない。次に、自治体によっては、移動制限の要請継続や、公共交通機関にも制限が見られるため、活動エリアの選定にあたっては、自治体からのメッセージを正確にくみ取らなければならない。さらに、山小屋やテント場などの登山インフラが、この段階では正常に機能していないことも考慮し、常に最新の情報をもとに計画する必要がある。

### 4.2.2 Step2 での業務開始時の基本的留意事項

Step2 では、従来の登山に COVID-19 のリスクを加えた、新たなスタイルのスタートとなる。この、誰も経験したことのないガイド形態をスタートさせるにあたっては、リスク管理のマージンを広く取る必要がある。各職域において COVID-19 流行以前に行っていた業務に対し、50%程度のレシオや通常より短く余裕のある行程でスタートすることを考え方の基本とする。まずは、COVID-19 を含めたリスク管理に対応できる体勢を整えることを主眼においてガイド業務を行う。

※COVID-19 に対する具体的なリスク管理については詳細を後述

「自然ガイド・登山ガイドにおけるガイド対顧客標準人数比率に係る規定」（H27年度）」を基に、50%程度のレシオや余裕のある行程を取ると各職域の Step2 の内容はおよそ以下のようなになる。

#### ①自然ガイドステージ I・II

従来の形態：ハイキング・登山 初心者向け山行 山地・高原等における整備された自然観察路、登山道等、1日の歩行時間の目安は、2～4時間程度、ガイドレシオ1：15

Step2 の形態：

初心者向け、行動時間2～4時間程度、ガイドレシオ1：7程度まで

#### ②登山ガイドステージ I・II

従来の形態：登山、中級者向け、比較的明瞭で危険箇所が一部あるが鎖や梯子等が整備され、一般登山者の往来が多い登山道。登山難路を除く、1日の行動時間は6～10時間程度、ガイドレシオ1：12

Step2 の形態：

登山、初級者・中級者向け、登山ガイドブック・登山地図現地での案内等々において、初級者～中級者向き、または一般向と表示され、整備された登山道。行動時間は4～6時間程度、ガイドレシオ1：6程度まで

#### ③登山ガイドステージ III

従来の形態：登山、上級者向け、急峻な山岳地形のコースで岩場、岩尾根、鎖場、梯子等の危険箇所が連続しているが、登山道として整備されたコース、あるいは登山道として利用される雪渓、残雪崩落箇所、沢の横断、渡渉等、足場がきわめて不安定で場合によって一部ロープによる安全確保が必要とされるコース。テントまたは避難小屋泊の縦走登山。1日の行動時間は8～10時間程度。ガイドレシオ1：5

Step2 の形態：

中級者向け一般登山道 行動時間4～6時間程度まで ガイドレシオ1：5程度まで

#### ④山岳 I・II・国際山岳ガイド

従来の形態：本職域においては本来ロープを使った登攀やバリエーションルートなどの上級者ルートが対象。

Step2 の形態：

中級者向け一般登山道 行動時間 4～6 時間程度まで ガイドレシオ 1：5 程度まで

クライミング講習においてはクライミングインストラクターに準じる

#### ⑤クライミングインストラクター

インドアクライミングインストラクター

Step2 の形態：

施設のルールに準ずる 室内特有の注意点に留意する事

※日本クライミングジム連盟のガイドライン等を参照

[新型コロナウイルス感染予防ガイドライン\(2020.5.21版\)](#)

[http://www.jcga.co/director/2020052\\_Guideline/JCGA-Covid19\\_guideline\\_0521.pdf](http://www.jcga.co/director/2020052_Guideline/JCGA-Covid19_guideline_0521.pdf)

[クライミングジムにおける熱中症対策ガイドライン](#)

[http://www.jcga.co/director/2020052\\_Guideline/JCGA-heatstroke-guideline.pdf](http://www.jcga.co/director/2020052_Guideline/JCGA-heatstroke-guideline.pdf)

※日本山岳スポーツクライミング協会のガイドライン参照

【[クライミングジムの営業再開に向けた感染予防指針](#)】

[https://www.jma-sangaku.or.jp/information/up\\_img/files/SC\\_医科学委員会による感染予防指針.pdf](https://www.jma-sangaku.or.jp/information/up_img/files/SC_医科学委員会による感染予防指針.pdf)

#### ⑥スポーツ・フリークライミング

Step2 の形態：

シングルピッチのトップロープまで、ガイドレシオ 1：4 名程度まで、ビレイポイントなどでの密を避ける事。アプローチが遠い場合は余裕を持った時間配分を行う。

※日本フリークライミング協会

[緊急事態宣言解除後の岩場利用のガイドライン](#)

[https://freeclimb.jp/doc/2020/guideline\\_with\\_corona\\_20200521.pdf](https://freeclimb.jp/doc/2020/guideline_with_corona_20200521.pdf)

Step2 では、COVID-19 に対応した新しいガイドスタイルの確立を目指す。内容については、変わりゆく社会的状況の変化に合わせてとともに、現場の声をフィードバックしながら更新し、業務内容が妥当であるか検証する。JMGA では、会員による現場の声を集めるために、ネット上にアンケートページを準備する（後日会員ホームページに掲載する）。その結果、状況に応じて Step2.5 を設定する可能性もある。

#### 4.3 Step3（解除拡大）

Step2 では COVID-19 への対応を含めた新しいガイドスタイルの習熟を目指すことを主眼に、従来の 50%程度のレシオとよりリスクマージンを設けたガイディングを行った。Step3 では、その習熟度と、行政からの要請や指針、医療機関や救助機関の状況、登山インフラの体制などを考え合わせたうえで、徐々に業務を拡大し次のステップへ移行する。

Step の移行は流動的なものであり、その判断は、COVID-19 に対応した新しいガイドスタイルの習熟度×医療機関・救助機関の状況×登山・交通インフラの体制を考え合わせて行われる。状況によっては、解除を緩めたり締めたりと双方向に移行する可能性があることを念頭に状況判断を行う必要がある。なお、医療機関・救助機関の状況については、ガイド協会会員サイトにお知らせのページを設けて新型コロナウイルス対策 PT 医療班が適宜更新し情報提供を行う予定である。

#### 4.4 Step4（注意継続）

COVID-19 に対して治療法が確立される、あるいは、ワクチンなどの普及によって新規発症が途絶する社会となった場合に Step4 へ移行する。しかしながら、治療法やワクチンが開発されず、新規発症は数少ないものの、一つの感染症として人間社会と共存した場合、COVID-19 は登山中のリスクの一つとして今後も引き続き注意しながらガイディングを行う事になる。

## 4.5 Step 移行の判断のための情報収集

Step 移行の判断については、以下の情報を元に行う。

- ・行政の指針
- ・医療機関・救助機関の状況
- ・登山・交通インフラの体制
- ・COVID-19 に対応した新しいガイドスタイルの習熟度とリスクコントロールの状況

## 5 感染拡大防止のための行動指針

---

### 5.1 登山計画

#### 5.1.1 参加者の健康確認と with コロナの登山様式の確認

##### 【ガイド自身およびクライアントの健康確認】

40 歳以上の中老年となるガイド、クライアントは、過去に一度も健康診断を受けたことがない場合は受診を推奨する。基礎疾患の有無をチェックすることで、感染に対するリスク評価を行う。ただし、流行地の医療機関においては、健康診断業務が休止している場合があるので、必ず事前に医療機関に問い合わせること。

2 週間前から体調管理がなされており、毎日の体温が記録されているか確認すること。また、COVID-19 の代表的な症状として、発熱、咳、倦怠感（だるさ）、味覚・嗅覚障害、息切れなどの症状があるかどうか確認すること。ツアー申し込みの時点で、クライアントにはコロナ禍での新しいスタイルの登山に理解を求め、健康に関するチェックシートに記入してもらうことが望ましい。※ツアー申し込み時のチェックシートは巻末資料①を参照

##### 【新型コロナウイルスに対して脆弱な参加者の確認】

平時に比べ、より厳格に参加者の持病（基礎疾患）の有無を確認する。新型コロナウイルス感染症の重症化に関してハイリスクなのは、65 歳以上、または、慢性呼吸器疾患、中等度以上の気管支喘息、重篤な心疾患、免疫不全患者（免疫不全の状態を引き起こす原因としてがんの治療、喫煙、骨髄移植、臓器移植、HIV 感染症、ステロイドやその他の免疫抑制薬の長期

使用など)、重度の肥満(BMI40以上)、糖尿病、透析・慢性腎疾患、肝疾患の持病がある者。ハイリスク因子をもつクライアントの参加はStepが早い段階では避けたほうがよい。

### 5.1.2 活動予定地

#### 【目的予定地】

都道府県を超えての移動については、移動先の都道府県や市町村町など、行政からのメッセージを自治体ホームページで確認する。緊急事態宣言解除後も、独自の要請をしている自治体が多く見受けられる。

業務開始当初は、移動の少ない山域、安全性が高くセルフレスキューが容易で既知のルートを選び怪我などのリスクを最小限にする。また、自粛期間により入山者が少なかったり、管理が不十分なルートが多いことに十分配慮したプランニングを行う。

人気のある山域、ルートでは混雑が予想される。登山口においては、混雑を避けるべく日時や参加人数などの調整に努める他、集合時間をずらすなどの対応を取ること。

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた登山に関する代表的な山域の行政からのメッセージは以下を参照。

※富山県 ([登山者の皆様へ富山県からのお願い | 富山県](#))

([http://www.pref.toyama.jp/cms\\_sec/1709/kj00022116.html](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00022116.html))

※長野県 ([山岳情報 / 長野県](#))

([http://www.pref.toyama.jp/cms\\_sec/1709/kj00022116.html](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00022116.html))

※岐阜県 ([新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた登山について \(登山者の皆さまへ\)](#))

(<https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/bosai/sangaku/11115/humaetatozan2.html>)

※山梨県 ([山梨県 / 山梨の登山・山岳情報ポータル](#))

(<https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/bosai/sangaku/11115/humaetatozan2.html>)

特に、屋久島、利尻島・礼文島、佐渡ヶ島などの離島や、僻地と言われる地域については、医療体制の脆弱性を鑑みて、行政からのメッセージを確認し特に慎重な対応をすること。

#### 【登山インフラの事前の確認】

駐車場・トイレ・山小屋などの営業状況を確認する。各山小屋での状況（水の利用制限、部屋割りなど）が大きく異なることが予想されるため、山小屋に予約をとる際には、その小屋の新型コロナウイルス感染症についての対応方法を確認し、それをあらかじめ顧客にも伝えること。多くの山小屋が三密を回避できることが困難なため休業となる、2020年の夏山シーズンにおいては、営業中の山小屋の混雑が予想されるため、利用にあたっては十分に注意すること。

※ヤマケイオンライン 全国の山小屋営業情報&交通機関の運休情報

<https://www.yamakei-online.com/journal/detail.php?id=5746>

※YAMAP 2020年の山小屋休業情報・各地の登山自粛要請

<https://mag.yamap.com/12402>

※山歩みち 新型コロナウイルス対策をしている山小屋を応援したい！情報まとめ

<https://3pomichi.com/3242>

#### 5.1.3 登山届 ～コンパスでの登山届について～

当協会と『山と自然ネットワーク コンパス』（以下、コンパス）は、入山エリアの混雑状況把握を目的に、コンパス経由で提出された登山届を集計し、エリアの入山状況かを携帯端末などで確認出来るシステムを整備します。あらかじめ、入山状況を把握するためには、入山1週間前までの登山届提出が望ましいと考えます。

※オンライン登山届システム

[コンパス～山と自然ネットワーク～](https://www.mt-compass.com)

<https://www.mt-compass.com>

#### 5.1.4 クライアントとの契約・支払い・キャンセルポリシーなど

##### 【契約】

できるだけ書面ではなくメールやオンラインで契約を行うこと。STEP が早い段階でのツアー参加においては、家族の同意を得るのが望ましい。

##### 【支払い】

ガイド料・ツアー代金の受け渡しについては、オンライン決済や銀行振込など直接現金をやりとりしない方法を検討する。

##### 【キャンセルポリシー】

体調不良によるキャンセルの払い戻しなどについては、講習・ツアー受付の際に十分にクライアントに取消条件を説明する事。

## 5.2 装備

### 5.2.1 食糧・水分

平時のガイド時の食料計画に基づき食料を用意する。しかし、山小屋の閉鎖など、通常利用できる登山インフラが滞っている場合が予想されるため、事前にルートの登山インフラを十分に確認すること。水分については、ネックゲイター（バフ）着用や、長期の自粛による暑熱順化不足、登山活動再開となる時期が初夏となるため、通常量よりも余裕を持つこと。一般的なルートで必要な水分量は下記の計算式で概算できるため利用すること。

$$\text{山行中に必要な水分量 (ml)} = \text{行動時間 (hr)} \times \text{体重 (Kg)} \times \text{係数 5}$$

(注)通常上記で求められた水分量の 7-8 割を山行中に携帯する、残りの 2-3 割は山行前・下山後に摂取する。

### 5.2.2 ファーストエイドキット

登山計画に必要なファーストエイドキットを再確認する。新型コロナウイルス対策・長期自粛後の夏場の登山開始に対して、どのような登山計画においても以下のものを用意すること

- ・使い捨て手袋（4-5 セット、アクセスしやすい場所に収納）
- ・電子体温計（非接触型である必要はない）使用毎に除菌シートなどで清拭
- ・アルコール綿などの除菌シート（体温計の除染などに使用）
- ・余分の経口補水液（液体・ゼリー・粉末いずれかの形態）

パルスオキシメーター（SpO2 モニター）は必ずしも必要ではない。SpO2 は標高が上がると一般的に低下する他、様々な要因で数値に影響が生じるため、数値の判断については参考に留め、消防機関や医療従事者の判断を仰ぐこと。

病院で使用するようなフェイスシールドは登山中には必ずしも必要ではないが、咳などの症状のある要救護者にファーストエイドを提供する場合は、使用することにより濃厚接触を避ける事ができる。

### 5.2.3 感染防御に必要な装備

#### 【マスク】

サージカルマスクや布マスクを一人あたり 4 枚程度持参、ガイドは予備を用意する。N95 マスクは登山中の一般的な使用には適さない。

#### 【ネックゲイター（バフ）】

市販のネックゲイターやハンドタオルなどスカーフとして利用できるものを各自 1 つ用意。登山中の使用方法については、次項（5.4）个人防护具を参照すること。

#### 【サングラスなどのアイウェア】

フェイスシールドは曇りや、風による煽りなどにより登山中の使用は推奨しない。飛沫による感染防御のため、サングラスやくもり・夜間でも使用可能な保護メガネの着用を推奨する。昼夜問わず、サングラスや調光可能なアイウェアの装着を推奨する。

### 【使い捨てゴム手袋】

市販のゴム・プラスチック製使い捨て手袋（医療用バリアグローブ）を4-5セット用意する。山行中はすぐに取り出せるように、ザックの雨蓋などアクセスしやすい場所に収納する。

### 【アルコールジェル】

市販のアルコールジェルを各自用意、ガイドは予備を持参すること。尚、5月末現在、手指衛生用のアルコール/エタノールは流通制限があり一部で入手困難。購入に際しては、できる限り濃度記載がされているものを購入すること。エタノール60%以下の商品は、1分以上の十分な接触時間がないとウイルスの不活化が期待できないため注意が必要。以下のサイトを参照して、有効な手指消毒法を習得すること

※市販品とウイルスの不活化については、北里大学の以下のサイトを参照

(プレスリリース)

[https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/albums/abm.php?f=abm00026588.pdf&n=20200417\\_%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9\\_%E5%8C%BB%E8%96%AC%E9%83%A8%E5%A4%96%E5%93%81%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E9%9B%91%E8%B2%A8%E3%81%AE%E6%96%B0%E5%9E%8B%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%82%A6%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%EF%BC%88SARS-CoV-2%EF%BC%89%E4%B8%8D%E6%B4%BB%E5%8C%96%E5%8A%B9%E6%9E%9C%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6.pdf](https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/albums/abm.php?f=abm00026588.pdf&n=20200417_%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9_%E5%8C%BB%E8%96%AC%E9%83%A8%E5%A4%96%E5%93%81%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E9%9B%91%E8%B2%A8%E3%81%AE%E6%96%B0%E5%9E%8B%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%82%A6%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%EF%BC%88SARS-CoV-2%EF%BC%89%E4%B8%8D%E6%B4%BB%E5%8C%96%E5%8A%B9%E6%9E%9C%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6.pdf)

※市販の手指衛生消費についての Q&A はこちらを参照

([医薬部外品および雑貨の新型コロナウイルス \(SARS-CoV-2\) 不活化効果について Q&A](#))

[https://www.kitasato.ac.jp/jp/albums/abm.php?f=abm00026769.pdf&n=20200511\\_%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9\\_%E5%8C%BB%E8%96%AC%E9%83%A8%E5%A4%96%E5%93%81%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E9%9B%91%E8%B2%A8%E3%81%AE%E6%96%B0%E5%9E%8B%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%82%A6%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%E4%B8%8D%E6%B4%BB%E5%8C%96%E5%8A%B9%E6%9E%9C%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6Q%26A.pdf](https://www.kitasato.ac.jp/jp/albums/abm.php?f=abm00026769.pdf&n=20200511_%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9_%E5%8C%BB%E8%96%AC%E9%83%A8%E5%A4%96%E5%93%81%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E9%9B%91%E8%B2%A8%E3%81%AE%E6%96%B0%E5%9E%8B%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%82%A6%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%E4%B8%8D%E6%B4%BB%E5%8C%96%E5%8A%B9%E6%9E%9C%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6Q%26A.pdf)

#### 【除菌シート】

移動中や山行中のトイレ利用や、共有するギアに対して使用すること。

#### 【携帯トイレ】

山小屋の閉鎖などにより、トイレの利用に制限が生じることが予想される。コロナ禍での登山においては、クライアントも含め携帯トイレの持参を推奨。

#### 【スリーピングギア】

コロナ禍では、寝具を他人と共有することは推奨されない。山小屋を利用する場合であっても、各自のシュラフやシュラフカバー、必要に応じてマットやピローなどを用意すること。ガイドツアーにおいては、クライアントにレンタルするより、各クライアントに持参するように指導すること。

#### 【ゴミ袋】

山行中の汚れたマスクやちり紙などを各自で持ち帰るためのビニール袋やジップロックなどを用意すること。体液がついたゴミを山小屋や公共交通機関などのゴミ箱には捨てないこと。

### 5.3 山域までの移動

#### 【交通機関】

単独、あるいは家族が自家用車で移動することが感染リスクの低減につながるが、やむを得ずタクシーなどの乗り合い、バスや電車などの公共交通機関を利用する場合には、換気やマスクの装着、手指消毒や手洗いといった感染防御を徹底すること。

#### 【集合解散場所】

クライアントとは登山口など現地にて集合解散すること。居住地からの自家用車による乗り合いは、車内という密閉空間を避けることができない。

#### 【買い物やトイレ休憩】

移動途中の店舗や施設を利用する際にも配慮をすること。段階的に社会活動を再開している途中においては、行動予定地周辺での買い物などは注意すること。

### 5.4 登山口など集合地での注意事項

#### 【クライアントの健康チェック】

チェックする項目は『体温』『咽頭痛』『頭痛』『咳』『味、匂いの異常』『だるさ・息切れ』。1つでも該当する場合、参加は望ましくない。体温のチェックは電子体温計にて測定する。非接触型の体温計については、環境などにより正常に測定できないことが予想され、また大型であり携帯に不向きであるため、必須ではない。通常の電子体温計を使用し、その都度、アルコール綿などで清拭する。体温は37.5度以上を参加不可とする。また、37.5度以下であっても、だるさが強いなど他の症状がある場合は総合的に判断して参加を見合わせる。

#### 【装備のチェック】

登山ギア、食料・水分、個人用防護具（マスク、ネックゲイター、手袋、手指衛生道具、携帯トイレなど）が各個人で装備されているか参加者と確認すること。

感染防御に必要なサングラス（アイウェア）、マスク、ネックゲイター、スカーフ、ゴム手袋、手指消毒薬、ゴミ袋を各個人が持参し、予備があるか確認（詳細は5.2.3 感染防御に必要な装備を参照）。宿泊を伴う山行の場合は、参加者自身に体温計を持参してもらう。

自粛期間の運動不足や暑熱順化不足、自粛解除のタイミングのため、熱中症発生のハイリスク状況であり、クライアントウェアも速乾性のものか登山口でチェックする事。登山ギアの貸し借りによる接触感染リスクを低減するために、登山ギアは各個人で用意されているか確認すること。

### 【混雑具合の把握】

駐車場の車の台数、可能な場合は登山届などを確認し、各休憩ポイントや山頂等のスペースなども勘案し、混雑が想定される場合は入山時間をずらしたり、他のコースを選択するなど登山口においても柔軟な対応をする。（「5.1.3 登山届 コンパスでの登山届について」も参照のこと）

## 5.5 山行中の行動指針

### 5.5.1 登山中

#### 【人との距離】

登山中は前後左右1.5～2m程度の間隔をとることが望ましい。歩行中には呼吸が荒くなり、大声で話をしているとき同様、エアロゾルを拡散する可能性がある。また、移動中には身体の後ろに空気のスリップストリームと言われる渦ができ飛沫が停滞しやすいと言われているが、感染のリスクが高まるかどうかは不明である。登山の場合、パーティーという集団が、荒い呼吸で長時間行動を共にすることになるため、少なくとも「前の人の足跡をたどるように歩く」のではなく、前後左右の間隔を長めにとるように心がける。

上記エアロゾルの飛散範囲イメージする例として、「他人が吸っているタバコの臭いを感じ取れる距離」と考えれば、理解しやすい。

#### 【个人防护具の着用】

マスク・ネックゲイター：

野外での歩行中のサージカルマスクやネックゲイターの着用は、発汗によるマスクの濡れや熱気がこもるなど、夏季の登山にはデメリットが多いため推奨しない。しかし、マスクやネックゲイターは、すれ違いや追い越しの時、ハシゴや鎖場などで対人距離をとれない状況などで、周囲の相手への配慮として、すぐに装着できるよう携帯すること。

アイウェア：

対人距離をとれない状況では、サングラスやメガネを着用し、目からの感染を防ぐことを推奨する。病院などで使用するフェイスシールドは風に煽られやすく、曇りやすい。また、視界が必ずしも良いとは限らないため、転倒などのリスクが高まり登山中の使用は推奨しない。

手袋：

行動中の登山用グローブの着用は任意とする。ただ、行動中に使用しているグローブは様々なものに触れるため、感染リスクがあるものと考えて、顔や食品などを不用意に触らないよう留意する。

#### 【すれ違いでの注意】

すれ違いなどの際には登山者同士の距離が近づきやすいため、対人距離に加えてマスクやネックゲイター、アイウェアの使用について留意が必要である。今まで以上に安全なスペースの確保やクライアントがそれぞれの距離を確保した上で、余裕を持ってすれ違いが実施できるようなガイディングが求められる。

#### 【各種物品の受け渡し】

登山ギアやカメラ・スマホなどの貸し借りを避ける。行動食・飲料についても各自で用意し、行動中はモノの受け渡しを極力控える。

#### 【ハイタッチサーフェスへの配慮】

登山中は、不用意に手で顔に触れないように注意喚起する。鎖や梯子、ロープなど登山中のハイタッチサーフェスを触れた後は、必ずアルコールジェルなどを使用する。また、他人が接触する可能性のあるロープを口で啜えたりしないように気をつける。消毒用品はすぐに取り出せる場所に収納し、適宜利用する。

### 5.5.2 休憩中

#### 【休憩場所・人との距離】

人気ルートなどでは、休憩場所が混雑して対人距離を保てない可能性を考慮し、タイミングをずらすなど混雑を避ける工夫をする。休憩中も人と人との距離（ソーシャルディスタンス）を保つように心がけ、なるべく顔が向きあわない、大きな声で会話しないなどの配慮を行う。周囲に他人がいる場所では、飲食中以外はマスクやネックゲイター、アイウェアなどの着用を考慮する。

### 【休憩・食事】

食事や休憩の前には水場があれば、流水での手洗いを山中での原則とし、施設が許可している場合は指定の石鹸を用い手洗いです。水がない場合はアルコールジェルなどを利用する。食事は各個人で持参するのが望ましいが、どうしてもガイドが提供する場合は、手洗いや消毒に加えてゴム手袋などを着用する。

### 5.5.3 宿泊時（山小屋・テント泊）

#### 【利用にあたって】

山小屋泊、テント泊とも各山小屋の指示に従うこと。なお、いずれも基本的には完全予約制となったり、宿泊可能数を通常よりも減らしての運営となることが予想される。必ず事前に予約や問い合わせを行うこと。山小屋利用については、各施設の新型コロナウイルス感染症についての対応方法を確認し、それをあらかじめ顧客にも伝え了解を得ることが望ましい。

#### 【宿泊時の配慮】

山小屋や幕営場は不特定多数の人が集まって過ごす場所である。可能な範囲で人と人との距離に留意することに加え、人の近くで大きな声で話をしない、咳エチケットを順守するなど配慮する。また、山小屋では換気の難しい空間や時間帯が存在する。屋内では原則としてマスクやアイウェアを使用し、多数の人が触る場所に触れた後は手洗いもしくは手指消毒を行う。食堂や談話室などでは、対面ではなく横並びに座ることを推奨するが、各施設の指示に従うこと。

#### 【テント泊時の注意】

テントの利用は家族以外では個人テントの利用を原則とする。テント場のスペースが逼迫する状況も想定されるため、混雑状況などの把握に努める。炊事での食器等の共有は避けること。水場やトイレなどが整備されていない状況も想定されるため、情報収集の上で計画を立てる。

## 5.4 下山後の注意点

### 【帰宅までの注意】

往路同様に交通機関の選定や移動中の対人距離などに注意する。下山後に飲食店や入浴施設などを利用する際には、地域の登山客の受け入れ状況や施設内の感染リスクに配慮すること。

### 【下山後の体調管理】

下山後にクライアントが COVID-19 に特徴的な症状を呈した場合は、すみやかにガイドに連絡するとともに医療機関に相談するように伝え、医師の判断を仰ぐこと。万一、陽性であった場合には管轄する保健所などの指示に従うこと。

また、ガイド自身が同様の症状を呈した場合にも、対応は同じである。

### 【衣類の洗濯・自宅での入浴】

使用した衣類は普段と同様に洗濯機と洗剤を使って洗濯して良い。同居家族との洗い分けは不要である。ただ、洗濯前の取り扱いにはマスクや手袋を使用し、家族と共用の洗濯カゴは使用しないこと。

### 【登山道具の洗浄・消毒】

洗濯が出来ない登山ギアは、一般的な除菌シートなどで清拭する。ロープやスリングなど強度管理が必要なギアに関しては、加熱や次亜塩素酸ナトリウムなどの使用に伴う安全性が担保されない可能性がある。これらの対応にあたっては、必ず製造メーカーの指示に従うこと。

## 6 巻末資料

### 資料①

#### 新型コロナウイルス感染症対策のための確認事項

この度は〇〇の登山ツアー・講習会へお申し込み頂き、誠にありがとうございます。お申しいただいた方にはCOVID19感染対策として、こちらの確認事項すべてにご回答頂くことを参加条件とさせて頂いております。ご面倒ですが、すべての項目を漏れなくご記入（または〇で囲む）下さい。尚、Covid-19による身体症状は急速に悪化することがあり、救助や医療が制限される山中では十分な対応が受けられないこともあります。自分だけでなく周囲のためにも、正確な情報提供につき何卒ご理解とご協力お願い申し上げます。

(会社名〇〇など)

(氏名) \_\_\_\_\_ (生年月日) \_\_\_\_\_ 年 月 日 (年齢) \_\_\_\_\_ 才 (性別) 男・女

過去14日間のあなたの体調	以下の該当する症状がある場合はチェック <input type="checkbox"/> 37.5度以上の発熱、 <input type="checkbox"/> 咳、 <input type="checkbox"/> 咽頭痛 <input type="checkbox"/> 鼻水・鼻つまり、 <input type="checkbox"/> 頭痛、 <input type="checkbox"/> 倦怠感(だるさ) <input type="checkbox"/> 味覚・嗅覚の異常、 <input type="checkbox"/> 息苦しき
過去14日以内に新型コロナ感染症患者との接触はありましたか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
あなたは次にあげる既往歴(持病)がありますか？	<input type="checkbox"/> 慢性呼吸器疾患、 <input type="checkbox"/> 心臓病、 <input type="checkbox"/> 糖尿病、 <input type="checkbox"/> 透析中、 <input type="checkbox"/> 抗癌剤使用中、 <input type="checkbox"/> ステロイド使用中、 <input type="checkbox"/> 免疫不全状態 <input type="checkbox"/> 重度の肥満(BMI>40)、 <input type="checkbox"/> 肝臓病
その他、現在治療中の病気はございますか	
登山中にも服用する内服薬があれば、記入してください	

#### 参加者の皆様へのおねがい

- ①当日朝、かならず体温を測って下さい。集合場所で確認させて頂きます。
- ②ガイドからゲストへお薬を差し上げることはできません。医薬品は各自でご用意ください。
- ③上記質問事項は正しくご記入下さい。
- ④どのようなツアーでも、新型コロナウイルス感染症対策として以下のものを持参してください
  - ・マスク3-4枚
  - ・ネックゲイター(バフ)1つ
  - ・手指衛生用品(アルコールジェルなど)
  - ・アイウェア(サングラスやメガネ)
  - ・使い捨てのゴム・プラスチック手袋
  - ・携帯トイレ
  - ・ゴミ袋(ちり紙など体液をついたものを収納できるもの、ジブロックでも可能)

上記内容に相違なく、ツアーを申し込みます

年 月 日 ご署名：



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6番9号 丸藤ビル2階

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@jfmga.com](mailto:office@jfmga.com)

令和2年11月25日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 8

—新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針—

いわゆる第3波の感染拡大における対応

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

晩秋から初冬を迎え、新型コロナウイルス感染症が全国各地に拡大、特に大都市地域においてはその広がり、第一波を越える脅威を感じます。日本山岳ガイド協会コロナ対策プロジェクトチームでは、今後のガイド活動におけるリスク管理を鑑み、STEP 3にあたる現段階では安全を担保しきれない状況かと思われまます。今後しばらくはSTEP 2の段階での活動をお願いいたします。STEP 2に関しては、6月2日の新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 7において発表しました「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針」のうちP. 8～P. 11に示されていますので、再度、ご確認の上、当面の対応をお願い致します。

なお、より詳しい医療班からの対応策につきましては、まとまり次第速やかに告知するよういたします。



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6番9号 丸藤ビル2階

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@jfmga.com](mailto:office@jfmga.com)

令和3年4月22日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 9

—新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針—

いわゆる第4波の感染拡大における対応（I）

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

新型コロナウイルス感染症が全国各地に拡大し、特に大都市地域におけるの広がりや、変異株の増大も伴い第3波を越える程の勢いになっています。このような状況から、東京都、大阪府、兵庫県、京都府は国に対して緊急事態宣言発出の要請をすることに至りました。

日本山岳ガイド協会コロナ対策プロジェクトチームでは、ガイド活動におけるリスク管理を鑑み、現在 STEP 2 の段階での活動をお願いしている次第です。STEP 2 に関しては、2020年6月2日の新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン VOL. 7 において発表しました「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針」のうち P.8~P.11 に示されていますので、再度、ご確認の上、当面の対応をお願い致します。

今後、緊急事態宣言が発出されてからの対応策については、専門家である医療班の意見を踏まえてとりまとめ次第、速やかに告知するよういたします。

皆様方におかれましては、2021年1月9日発信文書「一部地域での緊急事態宣言再発出に際してコロナ対策 PT 医療班からのお願い」等を再度ご確認ください、コロナ感染症に対して十分な注意を払ってガイド業務を遂行していただきますよう、くれぐれもお願ひ申し上げます。



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6番9号 丸藤ビル2階

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@jfmga.com](mailto:office@jfmga.com)

令和3年4月28日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 10

—新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針—

いわゆる第4波の感染拡大における対応(2)

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

このたび、令和3年4月25日から、東京都、大阪府、兵庫県、京都府の4都道府県に3回目の緊急事態宣言が発出されました。期間は5月11日までです。

今回の緊急事態宣言では、前回と同様、STAY HOMEとはなっておらず、ガイド業務そのものの自粛要請は出ていません。このため、日本山岳ガイド協会コロナ対策プロジェクトチームでは、ガイド活動におけるリスク管理を鑑み、現在STEP2の段階での活動を引き続きお願いする次第です。STEP2に関しては、2020年6月2日の新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドラインV01.7において発表しました「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針」のうちP.8-P.11に示されていますので、再度、ご確認の上、当面の対応をお願い致します。

なお、全国的に変異株を要因とする新型コロナ「第4波」が今までの波をはるかに上回るスピードで急拡大していること、それにより医療現場の逼迫度が増していることを踏まえ、緊急事態宣言区域の都道府県においては、不要不急の外出自粛に加え、都道府県をまたぐ不要不急の移動は極力控えるよう求められています。該当地域でのガイド活動においても、この点を十分考慮していただき、登山の延期、近距離の容易な山への変更、登山中の感染症対策の徹底等について、これまで以上にご留意いただきますよう、よろしくごお願い致します。

また、2021年1月9日発信文書「一部地域での緊急事態宣言再発出に際してコロナ対策PT医療班からのお願い」等を再度ご確認いただき、コロナ感染症に対して引き続き十分な注意を払ってガイド業務を遂行していただきますよう、くれぐれもごお願い申し上げます。

今後も、状況に変化があった場合は、新たな対応策について専門家である医療班の意見を踏まえてとりまとめ次第、速やかに告知するよういたします。



## 公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 18 番地 丸藤ビル 201 号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: [office@ifmga.com](mailto:office@ifmga.com)

令和 3 年 5 月 15 日

### 新型コロナウイルス感染症対策のための業務再開ガイドライン Vol. 1 1 —コロナ緊急事態宣言による中小法人・個人事業主への一時支援金制度の紹介—

公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム

大都市圏を中心に緊急事態宣言が発令され、さらに延長されました。また、コロナ禍は、変異株の拡大により、ますます感染者数が増えて、とどまるところを知りません。そのような中、ガイド業務はさらに苦境に追いやられています。特に専門ガイドにとっては、まさに死活問題となっています。そこで、すでにご存知の方や申請済みの方もおられるかと思いますが、標記の支援金についての概要と申請方法をお知らせしますので、ぜひご活用ください。

- ・ 事業名 **緊急事態宣言の影響緩和に係る一時支援金事務事業**
- ・ 管轄官庁 **中小企業庁**
- ・ Web サイト <https://ichijishienkin.go.jp/>

#### ・ 概要

新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき 2021 年 1 月 7 日に発令された新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言（以下「緊急事態宣言」という。）に伴う飲食店の時短営業又は不要不急の外出・移動の自粛により、特に大きな影響を受け、売上が大きく減少している中堅企業、中小企業その他の法人等及びフリーランスを含む個人事業者に対して、緊急事態宣言の影響が特に大きい 2021 年 1 月から同年 3 月までの期間における影響を緩和して、事業の継続を支援するため、事業全般に広く使える一時支援金を迅速かつ公正に給付するものです。（Web サイトより）

- ・ 給付額 **最大法人 60 万円、個人 30 万円**
- ・ 該当する法人及び事業者

①緊急事態宣言による飲食業の営業制限、②緊急事態宣言による不要不急の外出・移動の制限のいずれかの影響を受けている事により、2021 年 1 月、2 月、3 月の売上が 2019 年または 2020 年に比べて半分以下になった会社及び事業者が該当します。

※ガイド業は②により売上が半減したという事で該当します。

そして重要な事は、業種や所在地は問わずに全国の中小会社及び事業者が該当すると言う事です。例えば、緊急事態宣言下の隣県である山梨県や静岡

県などの事業者でも、その顧客が首都圏など緊急事態宣言下の地域の人であれば、当然、参加して頂けない事から売上に大きく影響を受けていると考えられます。

・申請方法の概略

(法人と個人では異なります。それぞれの Web サイトでの該当部分をお読み下さい。)

準備する書類を確認して全て用意する

- ① 入力項目の確認
- ② Web サイトにマイページをつくる
- ③ 事前確認機関（最寄りの税理士など）の確認を受ける
- ④ 申請（入力項目及び資料の添付）

以上、簡単な紹介ですが、**期日が今月末**と迫っていますので、至急のご案内とさせて頂きました。Web サイトを落ち着いて良く読み、手順・必要書類を用意して事前確認機関を探して作業を進めて下さい。

以上よろしくお願ひ致します。